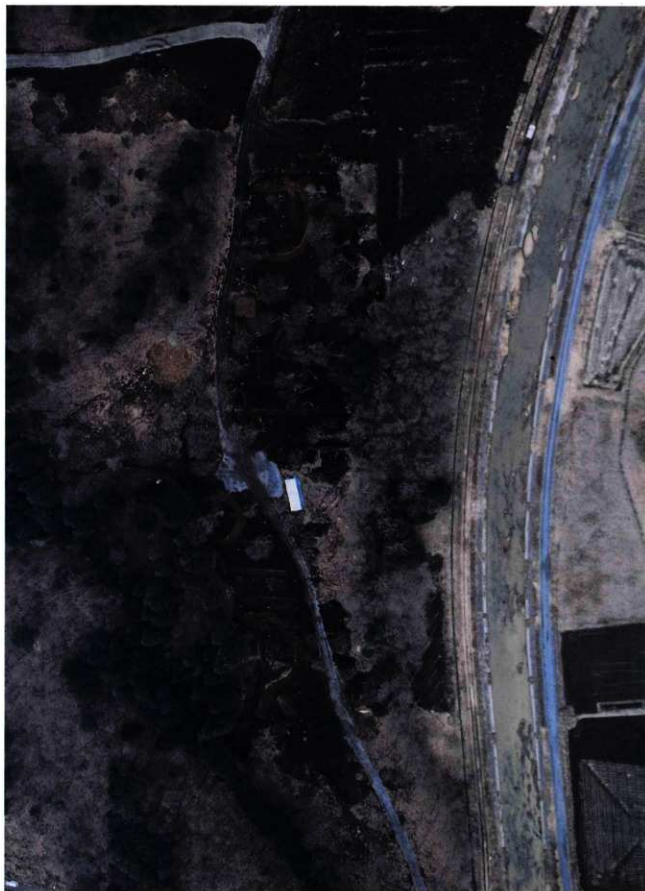


西刑部古屋原遺跡

平成14年3月

宇都宮市教育委員会



第IV・V調査区（北上空から）

序

古代、うつのみやが属した河内郡には、池辺郷、大統郷、刑部郷の諸郷があったといわれています。瑞穂野地区の周辺は刑部郷と推定され、近接したところを東山道が通過し、たくさんの人や軍隊が都と陸奥の間を往来しました。中世には、宇都宮氏の子孫がこの地を領有し、居館を構えて活躍をしました。

古代から人々がくらし、「瑞穂野」の名の通り豊かな土地を築いてきた本遺跡周辺は、その発展の足跡を大地に数多く残してきましたが、近年、大規模な開発の波が押しよせ、その姿を減らしつつある地域となっています。

今回、ご報告いたします西刑部古屋原遺跡は、全国都市緑化フェアの会場として利用された宇都宮市総合運動公園（仮称）の建設・整備に伴って発掘調査が行われました。ここに、本地域の足跡の一端を、発掘調査の成果として記録保存の形で収録いたしました。周辺地域史の解明の一助になれば幸いです。

今後とも当教育委員会といたしましては、市民の方々の文化財行政に対するご理解・ご協力をいただきながら、文化財の保存・活用に努力して参りたいと存じます。

末文になりましたが、発掘調査にあたりご指導を頂きました諸先生方ならびに、調査にご理解、ご協力を頂きました地権者並びに関係の皆様方に厚く御礼申し上げます。

平成14年3月

宇都宮市教育委員会
教育長 高 梨 眞佐岐

例 言

1. 本書は、宇都宮市西刑部町1766番地他に所在し、仮称、宇都宮市総合運動公園の建設・整備に伴う西刑部古屋原遺跡（調査面積：約28,000㎡）の記録保存のための発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、宇都宮市教育委員会が主体となり、平成10年4月2日～平成11年3月3日に実施した。
3. 遺跡地における測量、写真撮影等は茂木真澄の協力を得て、清水正幸があたった。
4. 遺構、遺物の整理、実測等は、茂木真澄、佐々木啓子、浜野真知子、高橋恵子、池田ひとみ、松本れい子、河上幸子、黒須博子、田中朱美、渡辺恵美子、生出栄子、渡辺秀実、須藤公子、大沢順子、岡田有紀子、君島朱美の協力を得て、今平利幸があたった。遺物の写真撮影は大沢順子、岡田有紀子、君島朱美の協力を得て、清水があたった。なお、遺物及び図面・写真は、宇都宮市教育委員会が保管している。
5. 本書の執筆は、Ⅰ～Ⅲ章4を清水が、Ⅲ章5・Ⅳ章を今平があたった。
6. 発掘調査の関係者は次のとおりである。

〔指導助言〕 宇都宮市文化財保護審議委員会委員 塙 静夫

同 大金 宣光

同 橋本 澄朗

〔事務局〕

〈発掘調査時〉




〈報告書作成時〉

教育長	大塚一之	教育長	高梨真佐岐
教育次長	須田章市	教育次長	阿部将樹
文化課長	桜井敬朔	文化課長	桜井敬朔
文化課長補佐	合田美津子	文化課長補佐	渡辺 卓
文化振興係	菊池 譲	文化振興係	菊池 譲
同	関口 淳	同	村田明重
同	荒井厚文	同	荒井厚文
同	小野敬子	同	石和裕則
同	石田康子	同	石田康子
文化財保護係長	手塚英男	文化財保護係長	手塚英男
文化財保護係	梁木 誠	文化財保護係	梁木 誠
同	小松俊雄	同	大塚雅之
同	大塚雅之	同	富川 務
同	栗原武夫	同	神野安伸
同	富川 務	同	増山孝之
同	神野安伸	同	今平利幸
同	今平利幸	同	京極隆利
同	京極隆利	同	清水正幸
同	清水正幸	同	須田浩太郎
同	高野欽哉	同	吉沢宣行
同	吉沢宣行	同	山岸博幸
		同	鈴木雅彦

〔調査補助員〕

石崎茂子、稲見潔、入江晴江、上野やえ子、大鐘平、梶尾鎮夫、早乙女たい、佐藤貞子、鈴木智子、鈴木ミネ、竹田彦市、田崎有之介、田中恭子、田仲安雄、中里泰子、仁平清、橋口優子、福田宜雄、星野文夫、増渕道子、松本隆、森嶋悦子、柳田順一（敬称略）

凡 例

1. 挿図の縮尺は、遺構1/60、カマド1/30、遺物1/3で示した。また、遺物実測図番号と図版の遺物番号とは一致する。
2. 断面図基準線は、標高であり、平面図方位は磁北を示す。
3. 遺構平面図において  は炉、 は焼土、 は炭化物を示す。
4. 文中および図版中の略号は、SIは住居跡、SKは土坑、SDは溝を意味する。
5. 遺構実測図の土層説明においては、次の略号を使用した。
ロームブロック：ロームB 今市バミス：IP 七本桜バミス：SP
6. 土器観察図内の(H)は、土師器を示し、(S)は須恵器を示す。

目 次

序・例言・凡例

I 調査の経過と方法	
1 調査の経過	1
2 調査の方法	1
II 遺跡の環境	
1 地理的環境	9
2 歴史的環境	9
III 調査結果	
1 古墳	
① 1号墳	12
② 2号墳	14
③ 3号墳	16
④ 4号墳	18
⑤ 5号墳	19
⑥ 6号墳	19
⑦ 7号墳	19
⑧ 8号墳	25
2 竪穴住居跡	
① SI01	29
② SI02	30
3 土坑	36
4 溝	38
5 遺構外遺物	
① 縄文・弥生土器	42
② 石器	43
③ 土師器	43
④ 金属器	45
IV まとめ	46

挿図目次

第1図	調査区周辺図	2	第24図	7号墳 平・断面図	25
第2図	第I調査区 トレンチ配置図	3・4	第25図	8号墳 平面図	26
第3図	第II調査区 トレンチ配置図	5	第26図	8号墳 断面図	27・28
第4図	第III調査区 トレンチ配置図	6	第27図	8号墳 遺物出土実測図	29
第5図	第IV調査区 遺構配置図	7	第28図	SI01 平・断面図	29
第6図	第V調査区 遺構配置図	8	第29図	SI01 出土遺物実測図	30
第7図	周辺の遺跡分布図	10	第30図	SI02 平・断面図	31
第8図	1号墳 平・断面図	12	第31図	SI02 炭化物及び焼土範囲平面図	32
第9図	1号墳 出土遺物実測図	13	第32図	SI02 出土遺物実測図(1)	33
第10図	SD01出土遺物実測図	13	第33図	SI02 出土遺物実測図(2)	34
第11図	2号墳 平・断面・遺物出土状況図	14	第34図	第I調査区土坑平・断面図	36
第12図	2号墳 出土遺物実測図	15	第35図	第III調査区土坑平・断面図・遺物実測図	37
第13図	3号墳 平・断面図	16	第36図	SD02 平・断面図	38
第14図	3号墳 出土遺物実測図	17	第37図	SD02 遺物出土状態図	38
第15図	4号墳 平・断面図	18	第38図	SD02 出土遺物実測図	38
第16図	4号墳 等高線図	19	第39図	SD01・03 平・断面図	39
第17図	4号墳 主体部平・断面図	20	第40図	SD04・05 平・断面図	40
第18図	4号墳 出土遺物実測図	21	第41図	SD08・07 平・断面図	41
第19図	5号墳 平・断面図	22	第42図	遺構外出土縄文・弥生土器実測図	42
第20図	5号墳 出土遺物実測図	22	第43図	石器実測図	43
第21図	6号墳 平・断面図	23	第44図	第V調査区遺物散乱区域遺物分布図	44
第22図	6号墳 遺物出土状態図	24	第45図	遺構外出土遺物実測図	45
第23図	6号墳 出土遺物実測図	24	第46図	鉄・青銅品出土遺物実測図	45
			第47図	古墳群変遷図	47

表目次

第1表	周辺遺跡一覧表	11	第10表	6号墳 出土遺物観察表(2)	25
第2表	1号墳 出土遺物観察表	13	第11表	8号墳 出土遺物観察表	29
第3表	SD01出土遺物観察表	13	第12表	SI01 出土遺物観察表	32
第4表	2号墳 出土遺物観察表	16	第13表	SI02 出土遺物観察表(1)	34
第5表	3号墳 出土遺物観察表	17	第14表	SI02 出土遺物観察表(2)	35
第6表	4号墳 出土遺物観察表(1)	21	第15表	土坑一覧表	36
第7表	4号墳 出土遺物観察表(2)	22	第16表	第III調査区土坑出土遺物観察表	38
第8表	5号墳 出土遺物観察表	23	第17表	第I調査区SD02出土遺物観察表	38
第9表	6号墳 出土遺物観察表(1)	24	第18表	第IV調査区遺構外出土遺物観察表	44

写真図版目次

- | | | |
|-------------------------|---------------------|-----------|
| PL 1 ①調査地域 (南東上空から) | | |
| PL 2 ①第Ⅰ調査区調査前風景 | ②第Ⅱ調査区全景 (北から) | |
| ③第Ⅲ調査区トレンチ (南西から) | ④1号墳完掘状況 (北東から) | |
| ⑤1号墳遺物出土状態 | ⑥1号墳西SD01 (E-E') | |
| ⑦1号墳セクション (A-A') | ⑧2号墳完掘状態 (東南から) | |
| PL 3 ①2号墳周溝セクション (C-C') | ②2号墳遺物出土状態 (南から) | |
| ③2号墳西SD03 (南東から) | ④3号墳セクション (A-A') | |
| ⑤5号墳遺物出土状況 (北東から) | | |
| PL 4 ①4号墳主体部 (南南西) | ②4号墳遺物出土状態 (南から) | |
| ③4号墳主体部セクション (南西から) | ④5号墳完掘状態 (南から) | |
| ⑤5号墳遺物出土状況 (南東から) | ⑥6号墳完掘状況 (東から) | |
| PL 5 ①6号墳遺物出土状態 (南東から) | ②6号墳調査風景 (南から) | |
| ③8号墳調査風景 | ④8号墳完掘状況 (南西から) | |
| PL 6 ①8号墳 (東から) | ②8号墳墳丘セクション (南東から) | |
| ③8号墳調査風景 | ④8号墳完掘状況 (南西から) | |
| ⑤SI02完掘状況 (東から) | ⑥SI02遺物出土状況 (東から) | |
| ⑦SI02柱穴 (西から) | ⑧遺物出土状態 (北東から) | |
| PL 7 ①SI02奥出土状 (南西から) | ②SK29完掘状況 (北から) | |
| ③SK28完掘状況 (西から) | ④SK05完掘状況 (南から) | |
| ⑤SK18完掘状況 (北から) | ⑥SK27完掘状況 (南から) | |
| ⑦SD01 (T-03) (南から) | ⑧SD01 (T-09) (南から) | |
| PL 8 ①SD01 (T-17) (南から) | ②SD03 (T-20) (北から) | |
| ③SD03 (T-24) (南から) | ④SD03 (T-26) (北から) | |
| ⑤SD04 (T-14) (南から) | ⑥SD04 (T-20) (南から) | |
| ⑦SD04 (T-30) (北から) | ⑧SD05 (T-26) (南から) | |
| PL 9 ①SD05 (T-22) (北から) | ②SD05 (T-26) (南から) | |
| ③SD02 (T-20) (西から) | ④SD07 (T-12) (東から) | |
| ⑤SD08 (T-10) (東から) | ⑥SD02墨書土器出土状態 (北から) | |
| ⑦発掘調査関係者 | | |
| PL10 ①1号墳出土遺物 | ②SD01出土遺物 | ③2号墳出土遺物 |
| PL11 ①3号墳出土遺物 | ②4号墳出土遺物 (1) | |
| PL12 ①4号墳出土遺物 (2) | ②5号墳出土遺物 | ③6号墳出土遺物 |
| PL13 ①6号墳出土遺物 (2) | ②8号墳出土遺物 | |
| PL14 ①SI01出土遺物 | ②SI02出土遺物 (1) | |
| PL15 ①SI02出土遺物 (2) | | |
| PL16 ①SI02出土遺物 (3) | ②土坑出土遺物 | ③SD02出土遺物 |
| PL17 ①遺構外出土遺物 (縄文・弥生) | ②遺構外出土遺物 (石器) | |
| ③遺構外出土遺物 (土師器) | ④遺構外出土遺物 (金属器) | |

I 調査の経過と方法

1 調査の経過

(仮称)宇都宮市総合運動公園の建設・整備に先立ち、平成7年7月27日～8月11日までの5日間、宇都宮市西刑部町地内において現地踏査による遺跡の所在調査を行った。もともと、高塚群として埋蔵文化財包蔵地だった所だが、現地踏査の結果や周辺地域の遺跡分布状況などから古墳時代から平安時代にかけての集落跡がある可能性が高まった。宇都宮市教育委員会文化課と宇都宮市地域振興課、総合運動公園推進室が協議したが、全国都市緑化フェア(平成12年秋開催)の会場としての使用も予定されていたため、建設・整備計画の大幅な変更は困難との結論に達し、発掘調査が必要になった。当初、平成9年度に確認調査・一部本調査、平成10年度に本調査を予定していたが、総合運動公園計画の見直し等による発掘調査対象地域の絞り込みが行われ、平成10年度に確認調査と本調査を並行させることとなった。


平成10年4月2日から、10mおきに2m幅のトレンチをいれる確認調査をI区から開始し、8月26日に終了した。9月8日には、Ⅲ区の確認調査を開始し、10月9日に住居跡1軒を確認した。並行して、Ⅳ区とⅤ区の確認調査を10月26日に開始、10月29日には古墳群を確認した。また、Ⅱ区の確認調査は、10月27日に開始し、11月10日に終了した。Ⅰ区とⅡ区は、本格的な遺構の確認には至らず、確認調査で終了している。

本調査は、Ⅲ区の住居跡、Ⅳ区とⅤ区の住居跡と古墳群がある地域が対象となり、11月以降に作業が本格化し、平成11年3月3日をもって終了した。

2 調査の方法

土地の使用許可、樹木の伐採、耕作物の処置等、条件が整った調査区から調査に着手することとした。各調査区とも、国家座標に基づいた10m間隔の基準杭を設定し、基準杭にそって重機でトレンチを掘り、遺構の確認調査を行った。

〔Ⅰ区〕土地を区画するための溝と思われるものを確認し、トレンチ掘削部分内の調査を行った。(第2図)

〔Ⅱ区〕調査区の大半から、大規模な攪乱の跡(低湿地だった時に木材や切り株等を埋め現況にした)を確認できた。攪乱を受けなかった部分で、土地を区画するための溝(第3図  部分)と思われるものを確認し、トレンチ掘削部分内の調査を行った。(第3図)

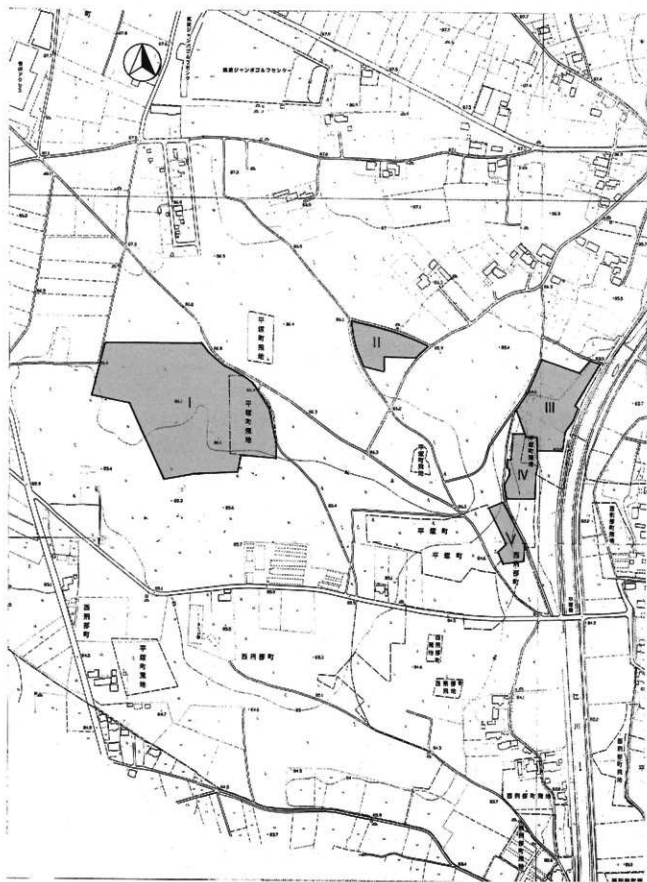
〔Ⅲ区〕調査区の北西部以外は、表土の下に泥層があった。調査区東側の江川の氾濫の跡と考えられる。一部から土地を区画するための溝と思われるもの確認した。

調査区の北西部の丘状の区域から住居跡1軒(SI01)を確認し、周辺を面的に拡張し本調査をした。(第4図)

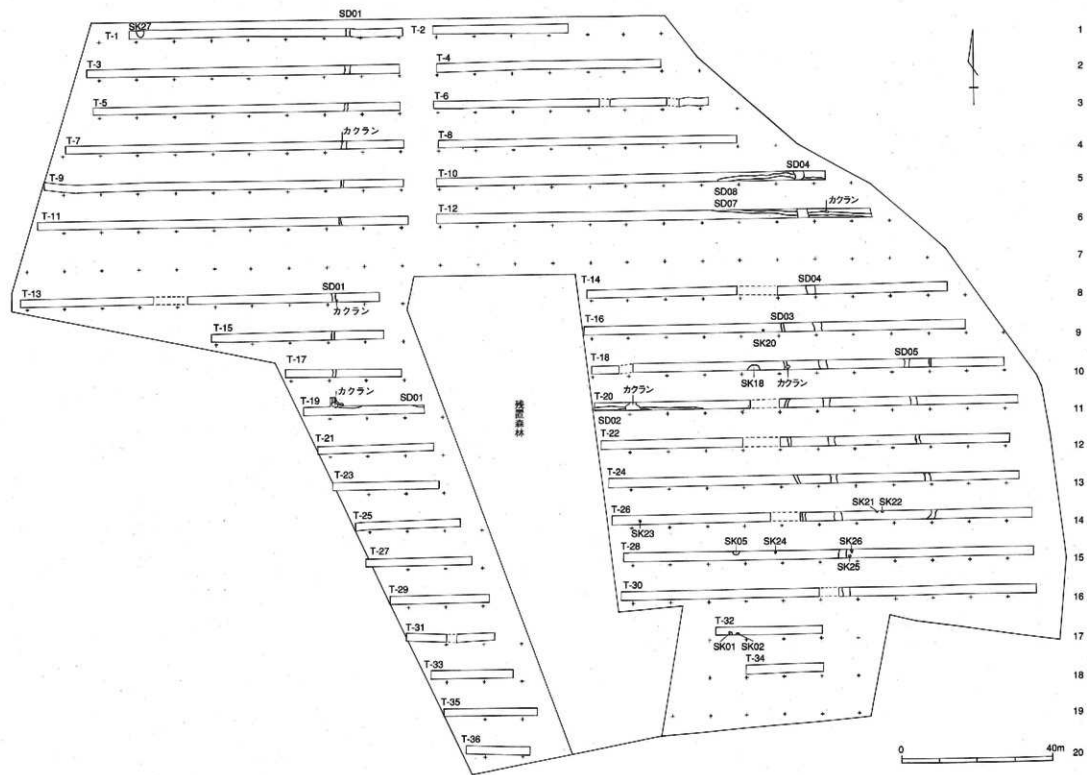
〔Ⅳ・Ⅴ区〕古墳群と考えられる数本の溝等を確認した。表土の除去範囲を調査区全面に拡張し、本調査に移行した。8基のうち墳丘が確認されなかった7基は、主体部の残存確認調査と周溝の全掘調査を行った。墳丘の一部が残存していた1基は、墳丘の断ち割り調査と周溝の全掘調査を行った。

(発掘調査日誌抄)

4月2日	I区のトレンチ掘削開始	9月8日	Ⅲ区のトレンチ掘削開始
4月13日	土師器片数片確認	10月9日	Ⅲ区のSI01を確認
4月22日	測量・図面作業開始	10月12日	SI01の掘削開始
8月26日	I区の確認調査終了	10月26日	Ⅳ区のトレンチ掘削開始
9月1日	Ⅲ区の草刈り開始	10月27日	Ⅱ区のトレンチ掘削開始



第1図 調査区周辺図 (1:5,000)

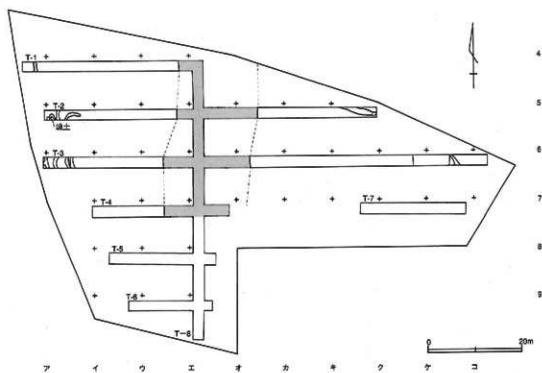


ア イ ウ エ オ カ キ ク ケ コ サ シ ス セ ソ タ チ ツ テ ト ナ ニ ノ ハ ヒ

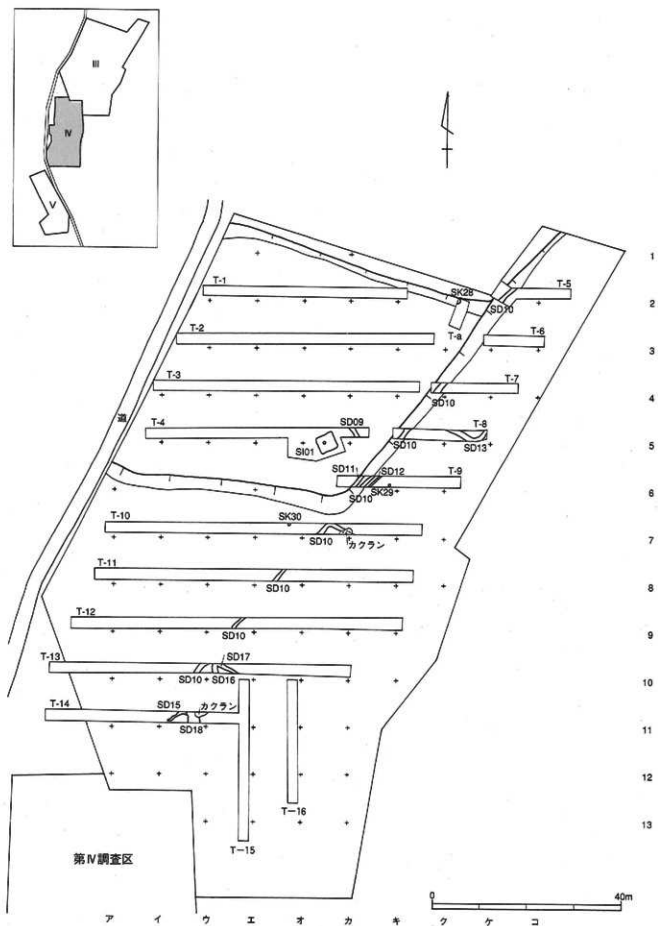
第2図 第I調査区トレンチ配置図

10月29日 IV区 古墳群を確認
 11月6日 V区の全面表土除去開始
 11月10日 II区の確認調査終了
 11月16日 IV区の全面表土除去開始
 12月9日 IV区のSI02の掘削開始
 12月10日 SI02の焼土層を確認
 12月16日 8号墳周溝の掘削開始
 1月8日 6号墳と7号墳の掘削開始

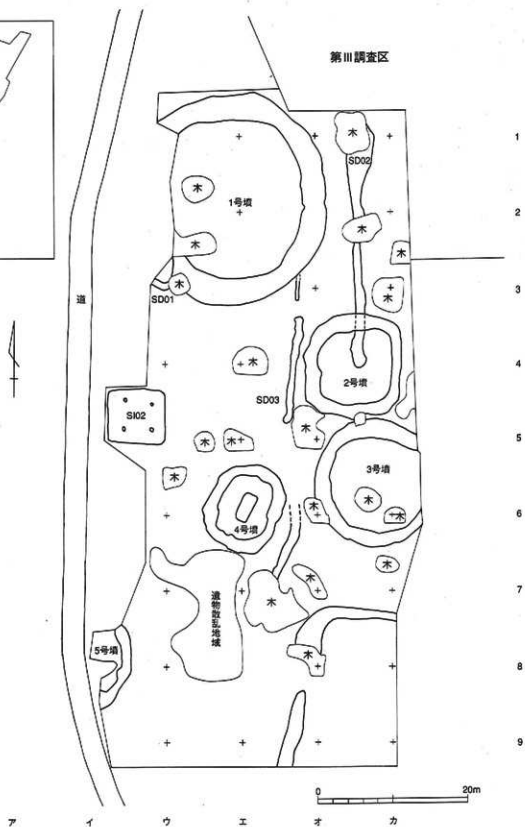
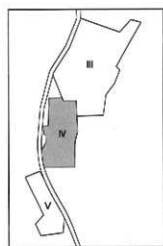
1月13日 4号墳と5号墳の掘削開始
 1月14日 1号墳の掘削開始
 1月27日 2号墳の掘削開始
 2月2日 3号墳の掘削開始
 2月18日 4号墳の主体部掘削開始
 2月26日 IV区とV区の空中写真撮影
 3月3日 調査終了



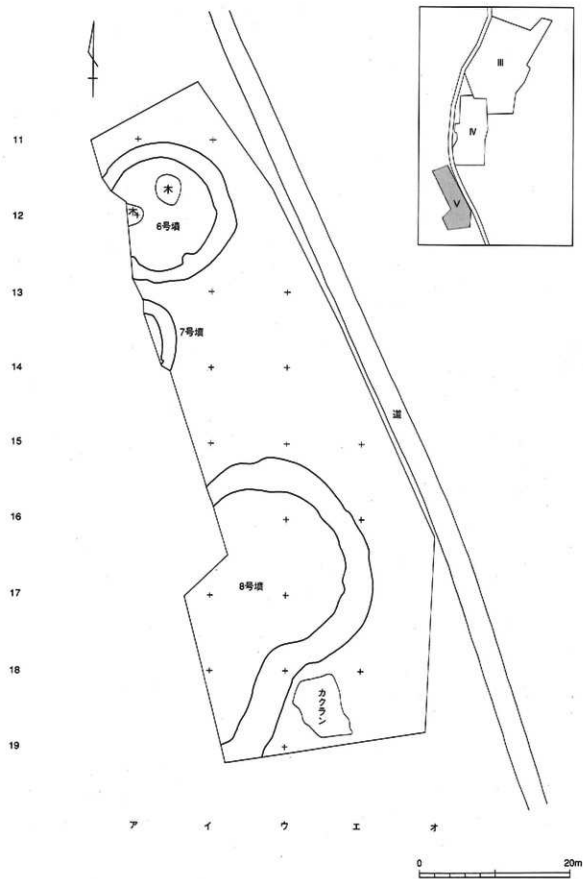
第3図 第II調査区トレンチ配置図



第4図 第Ⅲ調査区トレンチ配置図



第5図 第Ⅳ調査区遺構配置図



第6図 第V調査区遺構配置図

II 遺跡の環境

1 地理的環境

本遺跡は、宇都宮市街地の南南東約9km、上三川町との境界を間近にした宇都宮市西刑部町1766番地地にある。遺跡の周辺地域には、住宅団地や工業団地があり建物が目立ち始めている。また、国道新4号線、宇都宮環状道路、北関東横断道路上三川宇都宮IC、インターパーク宇都宮（テクノポリス東谷中島開発地区）などが近接地で建設されている。

宇都宮市の地形は、山地や丘陵地がある北西部と台地や平地が広がる南東部に大きく分かれる。本遺跡の西方約2.8kmには田川、東方約3.5kmには栃木県最大の河川である鬼怒川、すぐ東側には小河川の江川が南流している。田川と鬼怒川に挟まれた地域には、岡河川によってそれぞれつくられた沖積低地があり、その間に南北に細長く延びる台地（岡本台地）がある。本遺跡は、岡本台地の東縁部にあり、標高は86m前後、鬼怒川の沖積低地からは3m～5mの比高がある。調査前は、主に山林として利用されていた。

2 歴史的環境（第7図、第1表）

鬼怒川によってつくられた低地と田川によってつくられた低地に挟まれた岡本台地上で、宇都宮市南東部から上三川町にかけての地域では、遺跡の密度が高くなっている。近年、本遺跡周辺の盛んな開発により多くの発掘調査が行われ、大規模な集落跡や古墳群が確認されている。

【旧石器時代】岡本台地の標高が高くなっている瑞穂野団地遺跡（3320）、西赤掘遺跡（4382）、立野遺跡（4358）、杉村遺跡（4303）で剥片等が確認されている。

【縄文時代】晩期の堅穴式住居跡が杉村遺跡で確認されているのをはじめとして、陥穴土坑が本遺跡の西方にある杉村遺跡、砂田遺跡（3386）、立野遺跡で確認されている。これらの遺跡以外でも、仏沼遺跡（4391）、瑞穂野団地遺跡、柿坂遺跡（3327）で表採等で土器が確認されている。

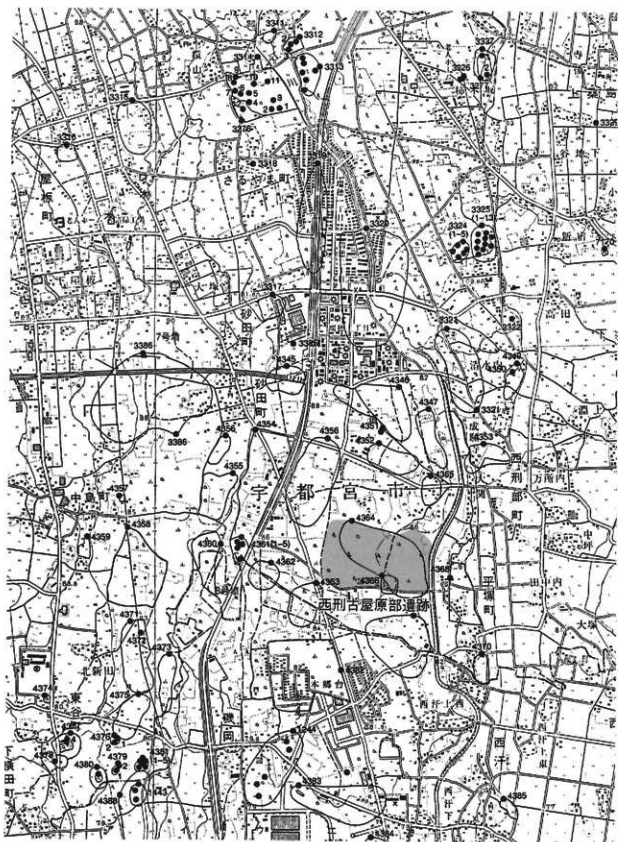
【弥生時代】瑞穂野団地遺跡、杉村遺跡で堅穴式住居跡が確認されているのをはじめとして、磯岡遺跡（4360）、権現山遺跡（4371）、立野遺跡で土坑が確認されている。

【古墳時代】この時期の遺跡は多く確認されており、特に中期～後期にかけてのものは顕著である。

古墳としては、桑島台古墳群（3324）や根本西台古墳群（3325）が岡本台地の東縁に近い所にあり、岡本台地の標高の高い所では、南原古墳（3385）、下桑島西原古墳群（3317）、琴平塚古墳群（4361）、西赤掘遺跡、西縁に近い所では、権現塚古墳群（4379）、塚塚古墳群（4381）、原古墳群（4376）などがある。

集落跡は、砂田遺跡、砂田姥沼遺跡（4356）、立野遺跡、権現山遺跡、西刑部西原遺跡（4354）、原遺跡（4375）、杉村遺跡、西赤掘遺跡など、岡本台地の標高の高い所に多く見られ、比較的規模の大きなものが確認されている。岡本台地の東縁に近い所にも成願寺北遺跡（4349）があり、ここでも、大きな規模の集落跡が確認されている。なお、杉村遺跡では、古墳時代中期の豪族居館跡も確認されている。

【奈良・平安時代】この時期にも、大きな規模の集落跡が確認されている。本遺跡の北方約1kmの所にある大関台遺跡（4346）、小屋原遺跡（4347）（両遺跡は隣接している）、さらに北方には瑞穂野団地遺跡や猿山遺跡（3319）、北西には砂田遺跡などがある。規模は未確認ながら、本遺跡の北方800mには後尚塚遺跡（4365）、江川を挟んだ北東1kmには榎戸遺跡（4353）もあり、古墳時代中期以降の本遺跡周辺のにぎわいを窺うことができる。なお、本遺跡の西方約1.3kmほどのところでは、南北方向にのびる東山道と推定される道路状遺構も確認されている。



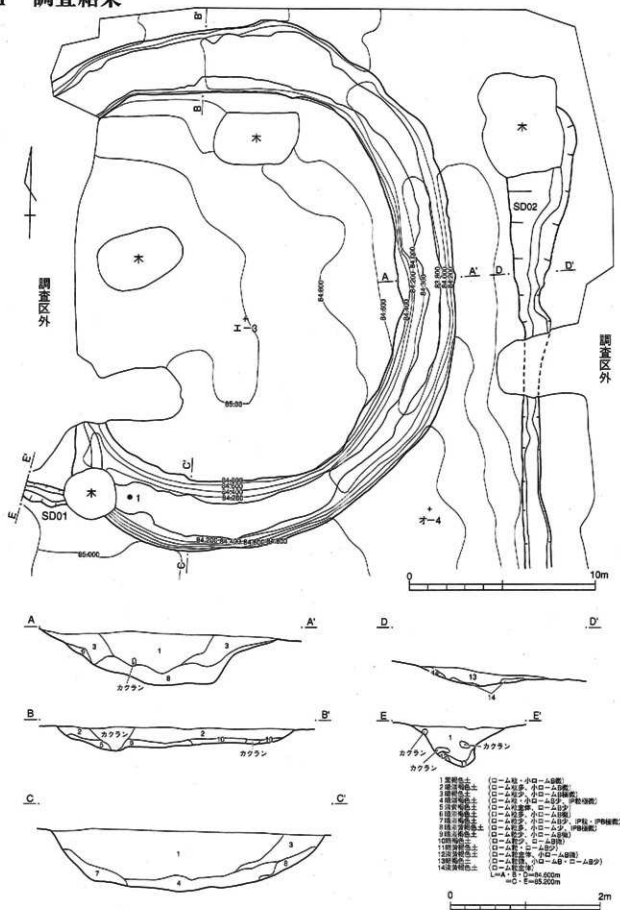
〔栃木県埋蔵文化財地図〕より

第7図 周辺遺跡分布図 (1:25,000)

遺跡番号	遺跡名	所在地	種別	時期	備考
1240	上郷古墳群	上三川町上郷	古墳	古墳	
1244	磯岡・西汗古墳群	上三川町磯岡・西汗	古墳	古墳	
3317	下桑島西原古墳群	宇都宮市下桑島町西原1200-3	集落跡	古墳	平成元・3年度調査 円墳2基
3319	猿山遺跡	宇都宮市西側部町2681-21ほか	集落跡	奈良・平安	昭和49・50・53年調査
3320	瑞穂野団地遺跡	宇都宮市瑞穂野3丁目3-1	集落跡	旧石器～奈良・平安	昭和48年一部調査 旧石器の削片1点
3321	藤原遺跡	宇都宮市西側部町2370ほか	集落跡	古墳～平安	
3322	飯塚古墳	宇都宮市上桑島町1114-11ほか	古墳	古墳	前方後円墳
3324	桑島台古墳群	宇都宮市西側部町桑島台2488	古墳	古墳	平成10年度調査 円墳5基
3325	根本西台古墳群	宇都宮市西側部町25004ほか	古墳	古墳後期	平成10年度調査 前方後円墳3基 方墳1基 円墳9基
3327	柿木板遺跡	宇都宮市上桑島町657	集落跡	縄文	
3385	南原古墳	宇都宮市さるやま町1199-38ほか	古墳	古墳	前方後円墳
3386	砂田遺跡	宇都宮市砂田町2684ほか	集落跡	古墳・奈良	平成8-11年度調査 縄文の陥穴状土坑
4303	杉村遺跡	宇都宮市東谷町9161ほか	集落跡 遺跡跡 土坑跡	弥生・古墳・奈良・平安	平成8・10-11年度調査 縄文晩期の竪穴住居跡、弥生中期の遺構
4345	上横田A遺跡	宇都宮市下桑島町西原2723	集落跡	古墳	
4346	大岡台遺跡	宇都宮市西側部町2061-10ほか	集落跡	古墳末期～平安後期	平成9・10年度調査
4347	小屋原遺跡	宇都宮市西側部町小屋原2063	集落跡	古墳後期～平安前期	平成10-11年度調査
4349	成願寺北遺跡	宇都宮市西側部町11461ほか	集落跡	古墳・奈良・平安	平成9年度調査
4350	飯塚山古墳	宇都宮市西側部町11604ほか	古墳	古墳	円墳状・前方後円墳?
4353	板戸遺跡	宇都宮市西側部町板戸1315	集落跡	奈良・平安	
4354	西側部西原遺跡	宇都宮市西側部町2718-14	集落跡	古墳～平安	
4355	中島倉塚遺跡	宇都宮市中島町9481ほか	集落跡	古墳～平安	
4356	砂田純沼遺跡	宇都宮市砂田町147-21ほか	集落跡	古墳～奈良・平安	
4358	立野遺跡	宇都宮市東谷町8661ほか	集落跡	古墳～平安	平成10年度調査 平成9-10年調査
4360	磯岡遺跡	宇都宮市砂田町5841ほか	集落跡	古墳～平安	旧石器の削片、縄文の土坑、弥生の土坑
4361	琴平塚古墳群	宇都宮市平塚町334-11ほか	古墳	古墳	
4363	内野遺跡	宇都宮市西側部町2774ほか	集落跡	古墳～平安	
4364	西側部古原遺跡	宇都宮市西側部町宇治原1766ほか	集落跡	奈良・平安	
4365	後高塚遺跡	宇都宮市西側部町宇後高塚1910	集落跡	奈良・平安	
4367	下小屋原遺跡	宇都宮市平塚町下小屋原261	集落跡	古墳～平安	
4368	平塚原根岸遺跡	宇都宮市平塚町1584ほか	集落跡	縄文・奈良	
4370	南浦遺跡	宇都宮市平塚町南浦1051ほか	集落跡	古墳～平安	
4371	権現山遺跡	宇都宮市東谷町8204ほか	集落跡	古墳	平成8・9-11年度調査
4372	桜輪荷古墳	宇都宮市東谷町896-21ほか	古墳	古墳～平安	弥生の土坑
4375	原遺跡	宇都宮市東谷町1001ほか	集落跡	古墳	円墳
4376	原古墳群	宇都宮市東谷町1351ほか	古墳	古墳	平成8-9年度調査 円墳2基
4377	笹塚古墳	宇都宮市東谷町4141ほか	古墳	古墳	
4378	鶴舞塚古墳	宇都宮市東谷町407-11ほか	古墳	古墳	前方後円墳
4379	権現塚古墳群	宇都宮市東谷町170	古墳	古墳	円墳
4381	車塚古墳群	宇都宮市東谷町2114ほか	古墳	旧石器・古墳・奈良～平安	円墳2基
4382	西赤塚遺跡	上三川町西汗町西赤塚	集落跡	先土器・縄文・古墳～平安	円墳5基 昭和48・平成2-6年調査
4391	仏沼遺跡	上三川町西郷沼字東蓮	集落跡	縄文	旧石器ブロンズ
7170	根本遺跡	宇都宮市下桑島町6471ほか	集落跡		昭和45年調査

第1表 周辺遺跡一覧表

III 調査結果



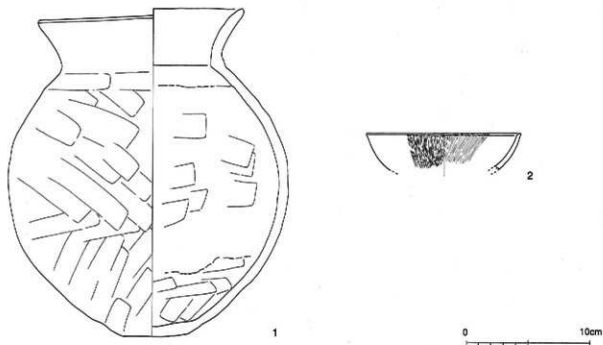
第8図 1号墳平・断面図

1 古墳

調査区の東部にあるⅣ区から古墳を5基、Ⅴ区から古墳を3基確認できた。

①1号墳 (第8・9図)

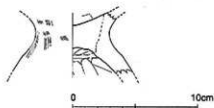
位置 第Ⅳ調査区エー3杭をほぼ中心とする範囲。墳形 南北方向に長い円墳。規模 東西20.5m×南北28.0m。墳丘 現存しない。周溝 幅3.18m～3.66m。深さ 0.26m～0.84m。東側から南側は深く、北側は浅い。断面は船底形。埋葬施設 なし。切り合い 南西側の周溝がSD01と切り合っていたと見られる。遺物 土師器甕1、土師器埴?1。出土位置は周溝南西側。備考 西側は調査以外のため一部不明。南西側の周溝と切り合っていたと見られるSD01から台付甕1が出土した。(第10図)



第9図 1号墳出土遺物実測図

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調査の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	甕 (H)	16.0	26.2	5.0	口縁部は「く」の字に屈曲し、胴部中央に最大径を有する。	口縁部内外面数ヶ所、胴部外面へラケが、内面へラケが。	淡褐色	砂粒	良好	埋土下層	3/5残
2	埴? (H)	12.0			体部は内径5cmに立ち上がり、口縁部に当る。	体部内外面へラケが。	褐色	砂粒	良好	埋土上層	破片

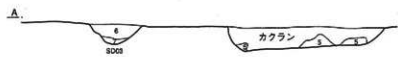
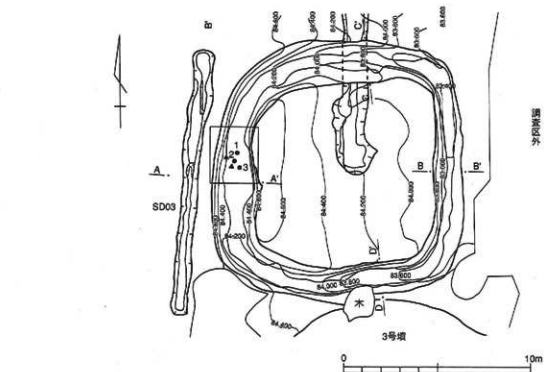
第2表 1号墳出土遺物観察表



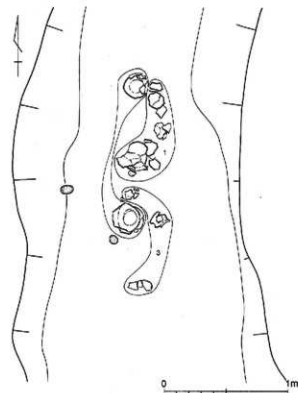
第10図 SD01出土遺物実測図

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調査の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	台付甕 (H)					台部外面ハケ。	赤褐色	砂粒	良好	埋土中	台部破片

第3表 SD01出土遺物観察表



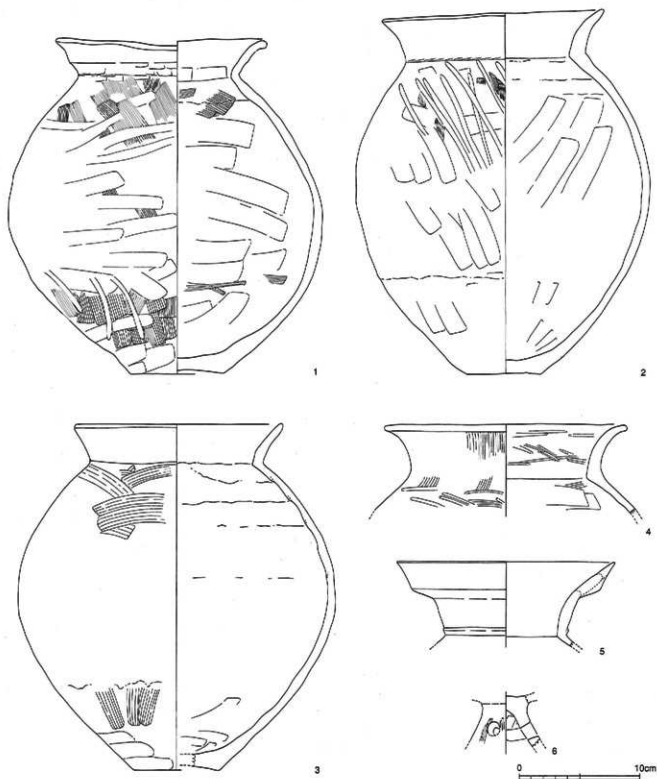
- 1 層褐色土 (ローム層)
 - 2 層赤褐色土 (ローム粒・小ローム多, 炭化物粒状)
 - 3 層赤褐色土 (ローム粒・小ローム多)
 - 4 層赤褐色土 (ローム粒・小ローム多)
 - 5 層赤褐色土 (ローム粒・小ローム多)
 - 6 層赤褐色土 (ローム粒・小ローム多)
 - 7 層赤褐色土 (ローム粒・小ローム多)
 - 8 層褐色土 (ローム粒・小ローム多)
 - 9 層赤褐色土 (ローム粒・小ローム多)
 - 10 層赤褐色土 (ローム粒・小ローム多)
 - 11 層褐色土 (ローム粒・小ローム多)
 - 12 層赤褐色土 (ローム粒・小ローム多)
- L=A-B=800m
B-D=84,200m



第11図 2号墳平・断面・遺物出土状況図

②2号墳 (第11・12図)

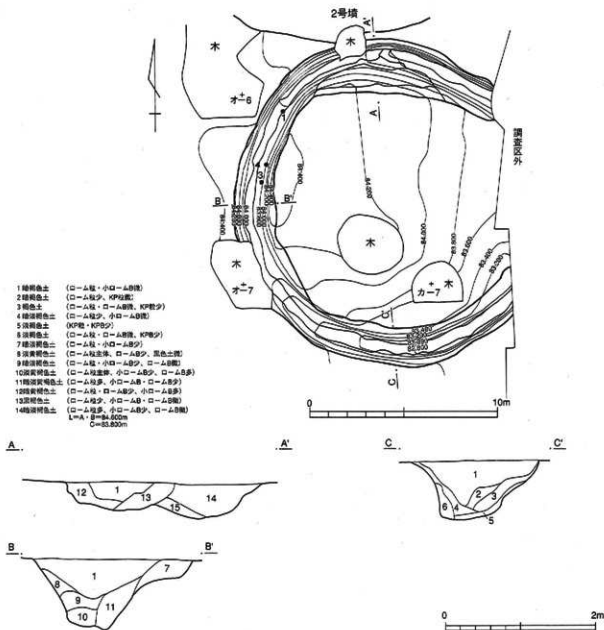
位置 第Ⅳ調査区カー4杭。墳形 方墳。規模 東西13.2m×南北13.9m。墳丘 現存しない。周溝 幅1.2m～2.3m。深さ0.26m～0.36m。底面ほぼ一定。断面は船底形。埋葬施設 なし。切り合い 周溝北側が1号墳の東側から南北に伸びるSD02を切っている。遺物 土師器甕4、土師器壺1、土師器高坏部1。出土位置は周溝西側。備考 南側で3号墳と隣接している。



第12図 2号墳出土遺物実測図

No.	種類	寸法 (cm)			形状の特徴	裏数の特徴	色 質	土 質	造 成	出土位置	備 考
		口徑	高さ	底径							
1	葉 (H)	17.4	27.5	7.7	口縁部は「く」の字に屈曲し、胴部はやや反側で、中位に最大径を有する。	口縁部内外面湾らず、胴部外側へハケ突へウケズリ、内面ハケ後へウケナク。	淡褐色	砂粒 0.5mm以上17%	良好	甌土中層	ほぼ定形
2	葉 (H)	18.4	29.8	6.2	口縁部は「く」の字に屈曲し、胴部はやや反側で、中位に最大径を有する。	口縁部内外面湾らず、胴部外側へハケ突へウケズリ、内面ハケ後へウケナク。	淡褐色	砂粒・豆粒	良好	甌土中層	ほぼ定形
3	葉 (H)	(17.2)	(28.3)	(7.0)	口縁部は「く」の字に屈曲し、胴部はやや反側で、中位に最大径を有する。	口縁部内外面湾らず、胴部外側へハケ突へウケズリ、内面ハケ後へウケナク。	淡褐色	砂粒 0.5mm以上17%	良好	甌土中層	1/4程度欠損
4	葉 (H)	(20.0)			口縁部は「く」の字に反折する。	口縁部外側へハケ突へ内面湾らず後内面屈曲しヒキキ。	淡褐色 炭灰質	砂粒 0.5mm以上17%	良好	甌土中層	口縁部破片
5	葉 (H)	(18.0)			口縁部は二重口縁を呈する。頸部に深い突帯を有する。	内外面へウケナク。	黄褐色	砂粒・小石 質石 0.5mm以上17%	良好	甌土中層	破片
6	高杯 (H)				胴部に円形の透孔を3孔穿つ。	胴部外側屈曲のウケヒキキ。	淡褐色	炭砂粒 質石・芝草	良好	甌土中層	胴部破片

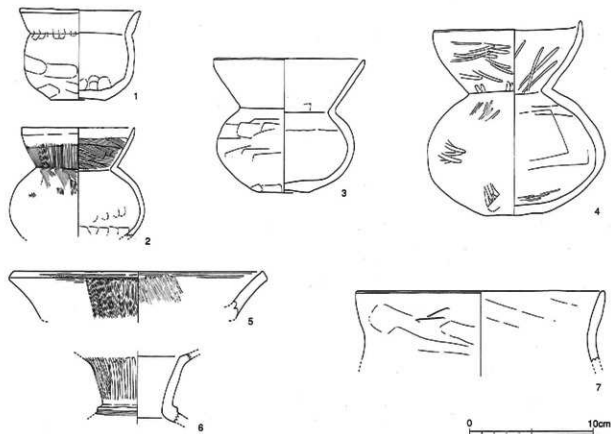
第4表 2号墳出土遺物観察表



第13図 3号墳平・断面図

③3号墳 (第13・14図)

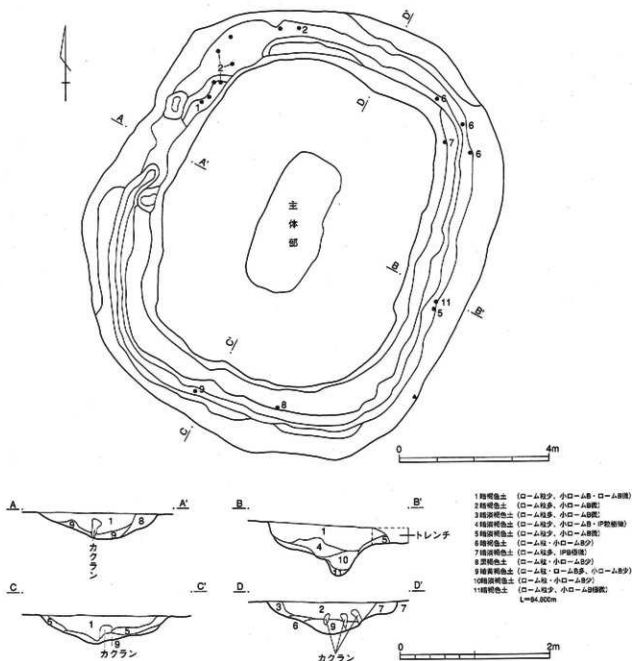
位置 第IV調査地区カー6杭。墳形 南北方向にやや長い円墳。規模 東西14.0m×17.2m。墳丘 現存しない。周溝 幅1.8m～2.7m。深さ0.38m～0.92m。北側以外の断面は逆台形。北側は浅い。2号墳に隣接する周溝北側は、掘り直し(北側を掘った後、南側を掘り直す)が行われている。埋葬施設 なし。切り合い なし。遺物 土師器小型壺2、土師器壺1、土師器甕1、土師器壺3、出土位置は、周溝西側。備考 東側は調査区外のため一部不明。北側で2号墳と隣接している。



第14図 3号墳出土遺物実測図

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	酒袋の特徴	色葉	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器径	底径							
1	甕(H)	9.7	7.4	4.2	底縁は凹底で、体部は内筒気球に立ち上がり、口縁部で外翻する。	口縁部内外筒状ナデ、体部内外筒ナデ。	淡褐色	砂粒・小石	良好	周土中層	ほぼ北形
2	小砂定(H)	9.0			胴部はやや扁平な球形で、口縁部は直線的に直す。	口縁部内外筒ハナ後口縁部直ナデ、胴部内外ハナ後、内筒ハナ。	淡褐色 黄褐色	砂粒	良好	周土中層	2/5残
3	小砂定(H)	12.2			胴部はやや扁平な球形で、口縁部は直線的に直す。	口縁部内外筒状ナデ、胴部外口ハナナデ、内筒ナデ。	淡褐色 黄褐色	砂粒	良好	周土上層	1/3残
4	甕(H)	12.0	10.7	4.0	胴部はやや扁平な球形で、口縁部は内筒気球に直す。	口縁部内外筒状ナデ後ヘラナデナ、胴部外口ヘラナデ、内筒ヘラナデ、一重ヘラナデ。	淡褐色 黄褐色	砂粒	良好	周土上層	1/2残
5	甕(H)	(20.0)	15.6	4.6		ハナ直縁ヘラナデ。	淡褐色	砂粒	良好	周土上層	破片
6	甕(H)				胴部に交符を施す。	胴部上中に横線文。	淡褐色	砂粒	良好	周土中層	東溝破片
7	甕(H)	(20.0)			口縁部は直線的に直す。	口縁部直ナデ。	淡褐色	砂粒・小石	良好	周土中層	破片

第5表 3号墳出土遺物観察表

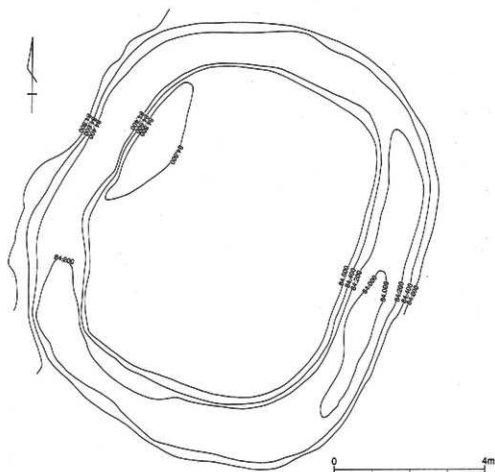


第15図 4号墳平・断面図

④ 4号墳 (第15~18図)

位置 第IV調査地区エー6杭を中心とする範囲。墳形 南北方向にやや長い方墳。規模 東西10.0m×南北11.76m。墳丘 現存しない。周溝 幅1.3m~2.1m。深さ0.36m~0.68m。東側を除き、周溝の底面はほぼ一定。断面は船底形。切り合いなし。遺物 土師器壺5、土師器甕3、土師器高坏1(脚部)、土師器埴1、土師器鉢1。

埋葬施設 位置 ほぼ墳丘中央。掘り方 長幅3.76m×短軸1.79m。形態 木棺直葬 棺規模 長軸2.45m×短軸0.89m。断面 箱形。深さ 確認面から約0.60m。主軸方向 N-29°-E。備考 主体部に粘土層は見られない。副葬品なし。



第16図 4号墳等高線図

⑤ 5号墳 (第19・20図)

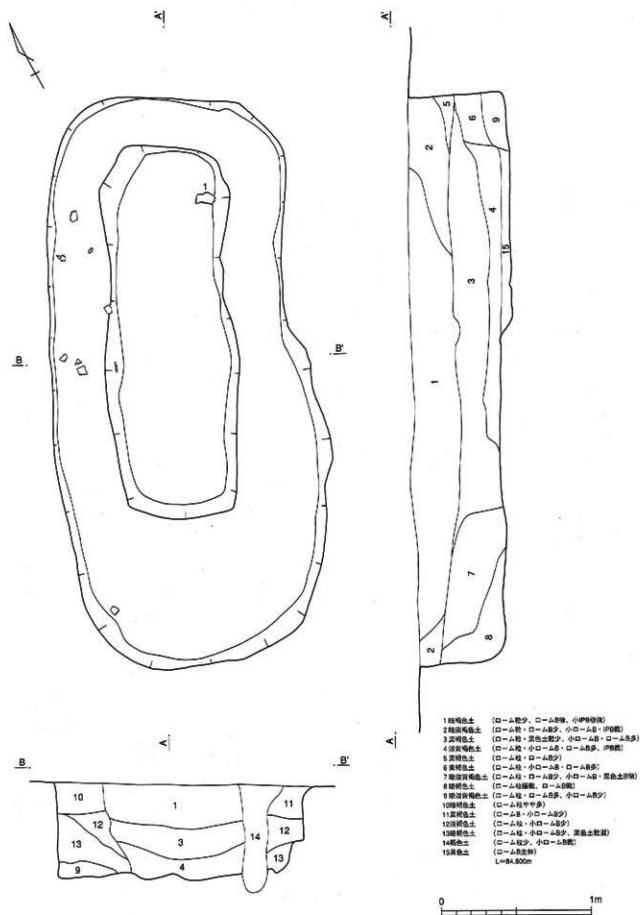
位置 第Ⅳ調査区北西角イ-8杭付近。墳形 一部確認のため不明。周溝が曲線なので円墳の可能性がある。規模 一部分の確認のため不明。墳丘 現存しない。周溝 幅1.2m~2.0m。深さ0.28m~0.56m。周溝の底面はほぼ一定である。断面は船底形。埋葬施設 不明。切り合い なし。遺物 土師器甕1、土師器小型壺1。備考 西側調査区外のため、全体の約3分の2が不明。

⑥ 6号墳 (第21~23図)

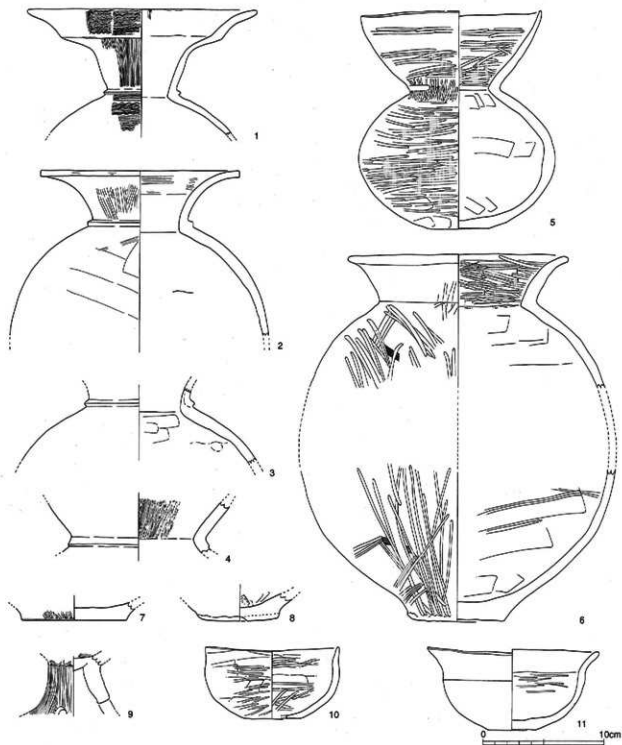
位置 第Ⅴ調査区北側ア-12杭。墳形 円墳。規模 東西約20m×19.2m。墳丘 現存しない。周溝 幅1.4m~3.2m。深さ0.64m~0.85m。周溝の底面はほぼ平である。断面は船底形。埋葬施設 なし。切り合い なし。遺物 土師器坏4、土師器碗1、土師器小型甕1、土師器壺2、土師器甕1。遺物のほとんどは南側周溝から出土。備考 南西側約4分の1が調査区外のため不明。

⑦ 7号墳 (第24図)

位置 第Ⅴ調査区ア-14付近。墳形・規模 一部分の確認のため不明。墳丘 現存しない。周溝 幅1.3m~2.2m。深さ0.30m~0.62m。断面は船底形。埋葬施設 不明。切り合い なし。遺物 なし。備考 西側調査区外のため約4分の3が不明。



第17图 4号墳主体部平・断面图



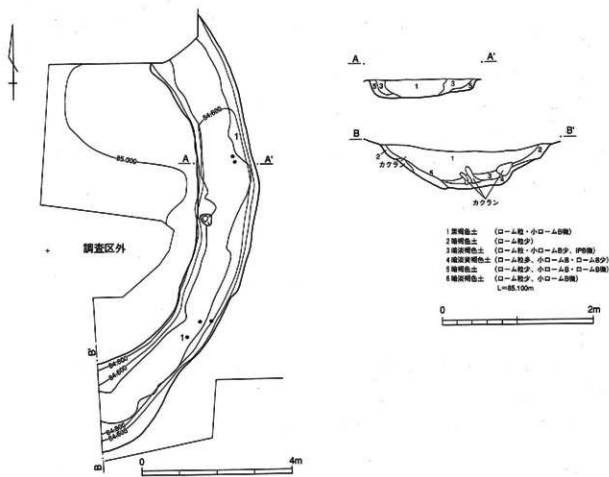
第18図 4号墳出土遺物実測図

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調査の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	甕 (H)	19.0			口径部は二重口径を呈し、頸部に突帯を廻らす。	口径部外面に放射状文、頸部上半に横線文と放射状文を2段に施す。	淡褐色	砂泥	良好	埋土上層	破片
2	甕 (H)	16.2			口径部は大きく外反し、口径部は直取りする。頸部の突帯を廻らす。	口径部ハナ後横ナデ、胴部外面ハナ後ヘラミダキ、内面ナデ。	淡褐色	砂泥・黒石 石英 純土27%	良好	埋土上層	破片
3	甕 (H)				口径部突帯を廻らす。	胴部外面ヘラミダキ、内面ナデ。	淡褐色	砂泥	良好	埋土上層	頸部破片
4	甕 (H)				頸部に横い突帯を廻らす。	胴部外面ナデ、内面ヘラミダキ。	淡褐色 淡褐色	砂泥・黒石	良好	埋土上層	破片

第6表 4号墳出土遺物観察表 (1)

No.	器 種	寸 法 (cm)			形状の特徴	調査の特徴	色 調	土 質	焼成	出土位置	備 考
		口径	胎高	底径							
5	皿(H)	14.9	17.9	14.9	胴部は球形で、口縁部は内湾気味に開く。	口縁部内外面嵌ナテ後ヘラミダギキ、胴部外面ヘラミダギキ、内面ヘラナテ。	淡褐色	粉砂 微砂	良好	埋土下層	ほぼ完形
6	甌(H)	(18.2)		17.5	口縁部は「U」の字に外反し、胴部は中長胴で、中位に最大径を有する。	口縁部内外面嵌ナテ後内面ヘラミダギキ、胴部外面ハテ後ヘラミダギキ、内面ヘラナテ。	粉褐色 微砂	粉砂 微砂	良好	埋土上層	1/3残
7	甌(H)			8.5	平底。	木炭灰後ヘラナテ。	淡褐色	砂・厚石 小石	良好	埋土上層	底部のみ残
8	甌(H)			6.2	輪台。		淡褐色	砂・石灰 カキヤシ	良好	埋土上層	底部のみ残
9	高平(H)				胴部口縁部の湾みを2つ穿つ。	胴部外面嵌ナテ後ヘラミダギキ。	淡褐色	砂・厚石 砂	良好	埋土上層	胴部底片
10	皿(H)	(11.0)	(6.8)	(4.2)	平底で、内湾気味に立ち上がり、口縁部が直立する。	口縁部嵌ナテ後全体をヘラミダギキ。	褐色	砂	良好	埋土上層	1/6残
11	鉢(H)	14.2	6.8	3.8	平底で、内湾気味に立ち上がり、口縁部で外反する。	口縁部嵌ナテ、体部内外面嵌ナテヘラミダギキ。	淡褐色 褐色	砂 砂	良好	埋土下層	ほぼ完形

第7表 4号墳出土遺物観察表 (2)



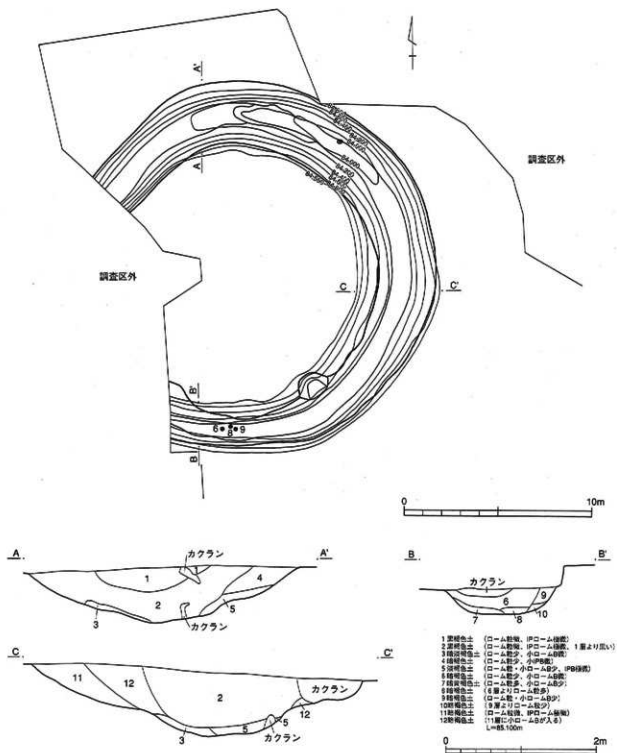
第19図 5号墳平・断面図



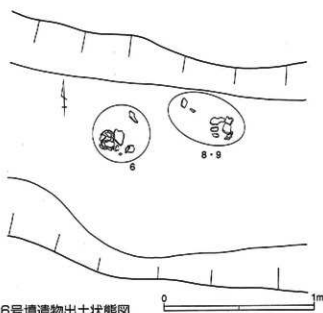
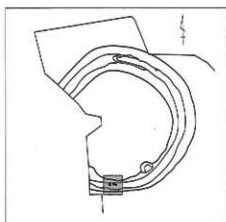
第20図 5号墳出土遺物実測図

No.	番 種	寸 法 (cm)			形状の特徴	調整の特徴	色 質	胎 土	施 装	出土位置	備 考
		口径	器高	底径							
1	器(H)	(18.8)			口縁部は「コ」の字状を呈する 基部球形。	口縁部内面ハケ後内外面粗す び。	緑褐色 白色 明褐色	砂質 赤色土 微砂粒	良好	埋土中層	破片
2	木器(H)					口縁部内面ハケ後ヘラ ミダキ。			良好	埋土中	胴部破片

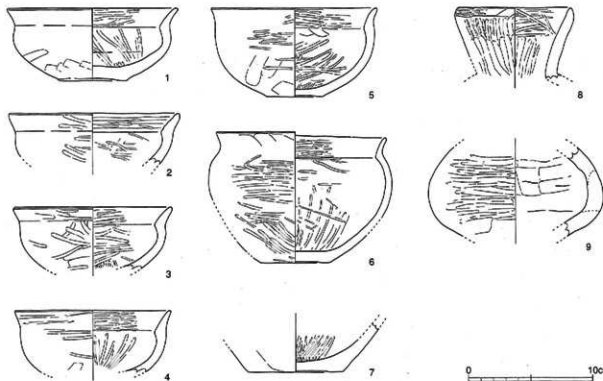
第8表 5号墳出土遺物観察表



第21図 6号墳平・断面図



第22図 6号墳遺物出土状態図



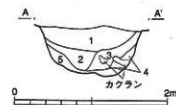
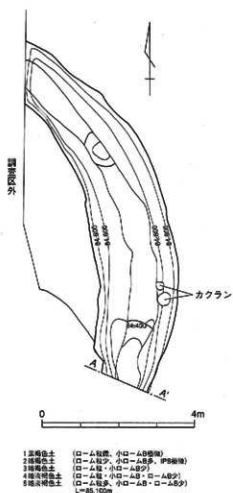
第23図 6号墳出土遺物実測図

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	実態の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	杯 (H)	13.6	5.8	6.5	平底で、体部が内筒気味に立ち上がり、口縁部で外反する。	口縁部内外面がナメテラ内面へツミギキ、体部内外面がナメテラ内面へツミギキ。	褐色	赤灰・黒石 焼成177度	良好	墓土上層	1/4残
2	杯 (H)	13.3			体部が内筒気味に立ち上がり、口縁部で外反する。	口縁部内面ハツテ内外面がナメテラ内面へツミギキ、体部内外面へツミギキ。	赤褐色	赤灰 焼成177度	良好	墓土上層	1/2残
3	杯 (H)	12.3			体部が内筒気味に立ち上がり、口縁部で外反する。	口縁部内外面がナメテラ内面へツミギキ、体部内外面へツミギキ。	褐色	赤灰・黒石	良好	墓土上層	3/4残

第9表 6号墳出土遺物観察表 (1)

No.	器 種	寸 法 (cm)			器形の特徵	調整の特徴	色 調	胎 土	焼成	出土位置	備 考
		口径	器高	底径							
4	杯(H)	12.4			胴部内外面縁ナデ後へウレガ、各部内外面へラミガキ。 口縁部で対称する。	褐色色 赤褐色	赤紋 緑土17%	良好	積土上層	瓶片	
5	罎(H)	(13.4)	7.1	4.5	平底で、縁部が平肉突起に立ち上がり、口縁部で外反する。	口縁部内外面縁ナデ内面へラミガキ、 各部内外面ナデ後へウレガキ。	赤褐色 赤褐色	赤紋 緑土17%	良好	積土上層	1/4程度
6	杯(H)	13.6	10.5	5.6	口縁部は深く外反し、胴部上半に長大眼を有する。	口縁部内外面縁ナデ後内面へラミガキ、 各部内外面へラミガキ。	褐色色 褐色色	赤紋 緑土17%	良好	積土下層	ほぼ完形
7	罎(H)			7.5	口縁部は直線的に開く。	口縁部内外面へラミガキ。 胴部内外面へラミガキ。	赤褐色 褐色色	赤紋 緑土17%	良好	積土下層	瓶片のみ
8	罎(H)	9.0			口縁部は直線的に開く。	口縁部内外面へラミガキ。	赤褐色	赤紋 緑土17%	良好	積土中層	口縁部のみ
9	罎(H)				胴部はやや扁平な球形。	胴部外面へラミガキ、内面ナデ。	褐色色	赤紋 緑土17%	良好	積土中層	胴部のみ

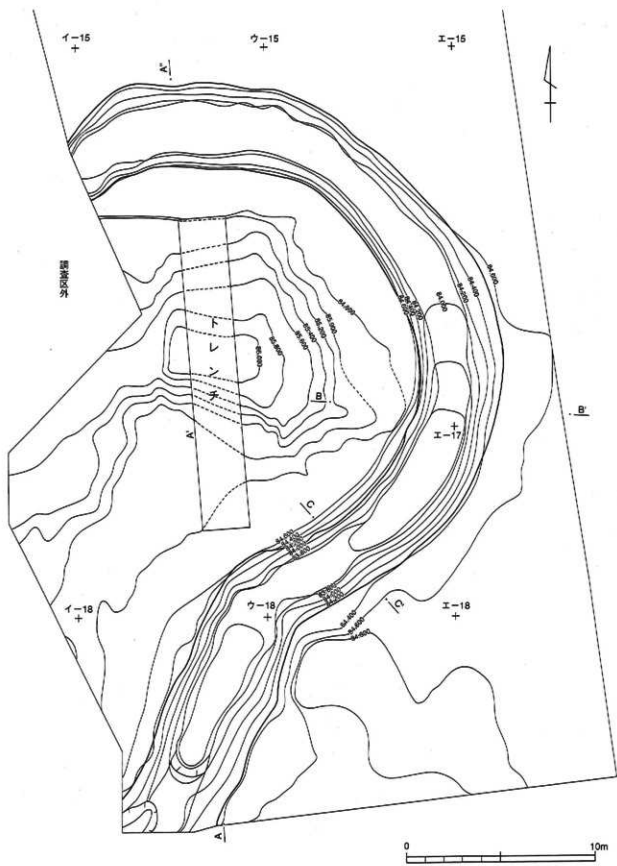
第10表 6号墳出土土物観察表(2)



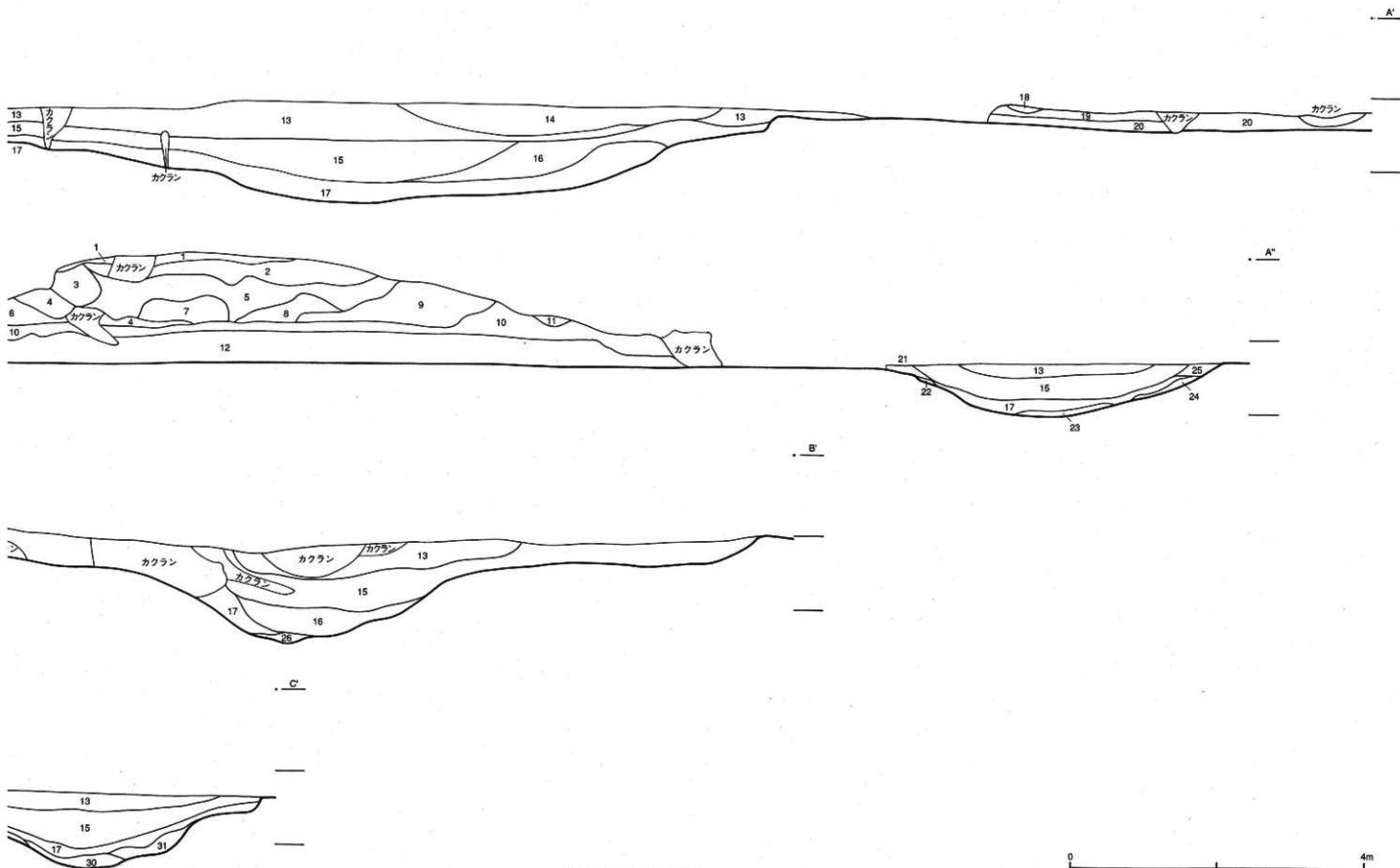
第24図 7号墳平・断面図

⑧ 8号墳 (第25~27図)

位置 第V調査区ウー17杭をほぼ中心とする範囲。
 墳形 前方後円墳。規模(調査範囲)南西北東28.2m。
 墳丘 前方部がわずかに残る(調査面から11.5m)。前方部と後円部の境目付近は、削平されている。後円部も削平や攪乱を受けている。全長 後円部径約28m。前方部幅・前方部高さ不明。周溝 幅3.5m~5.1m。深さ0.75m~1.35m。底面はほぼ平ら。断面は船底形。埋葬施設 なし。切り合い なし。遺物 土師器杯1、須恵器壺1、須恵器鉢1、須恵器横瓶1。備考 後円部の一部と前方部は、調査区外のため不明。

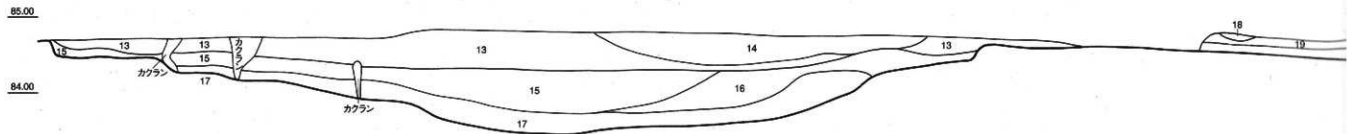


第25図 8号墳平面図

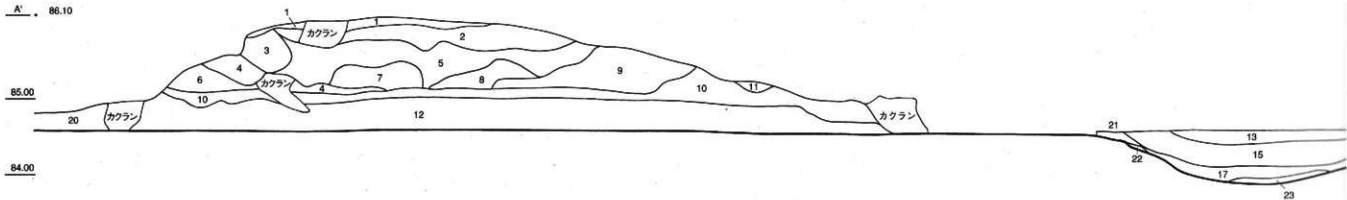


第26図 8号横断面図

A . 86.10

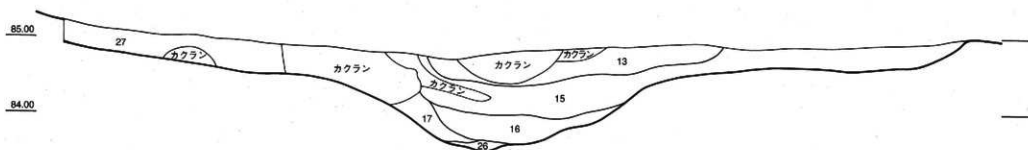


A' . 86.10



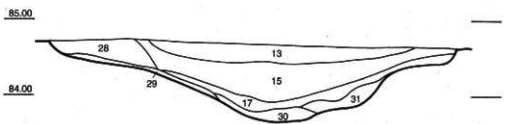
B . 86.10

B'



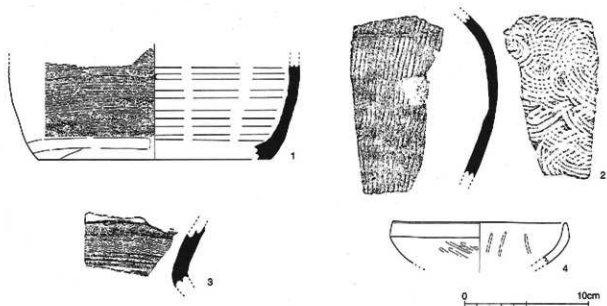
C . 86.10

C'



第26図 8号墳断面図





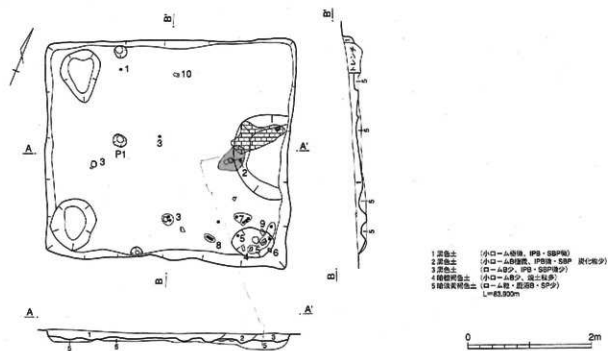
第27図 8号墳出土遺物実測図

No.	器種	寸法 (cm)		器形の特徴	調査の特徴	色澤	胎土	焼成	出土位置	備考
		口縁	器高							
1	鉢 (S)		(18.8)	平底。	ロタラ底形、胴部下部帯状のヘタラズリ。	暗褐色	赤灰	良好	埋土上層	破片
2	甕 (S)				外周平行帯、内面同心円文、灰色	黄褐色	良好	埋土上層	破片	
3	甕 (S)				波状文 (6次)	黄褐色	良好	埋土中	破片	
4	杯 (O)	(14.0)		口縁部は直立。	1周部波状、胴部ヘタラズリ。黄褐色	赤、黒	良好	埋土上層	破片	

第11表 8号墳出土遺物観察表

2 住居跡

調査区の東部にあるⅢ区から竪穴住居跡1軒、Ⅳ区から竪穴住居跡1軒が確認できた。



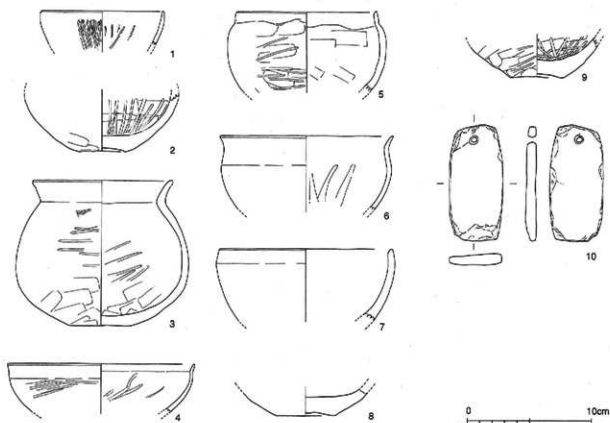
第28図 SIO1平・断面図

①SI01 (第28・29図)

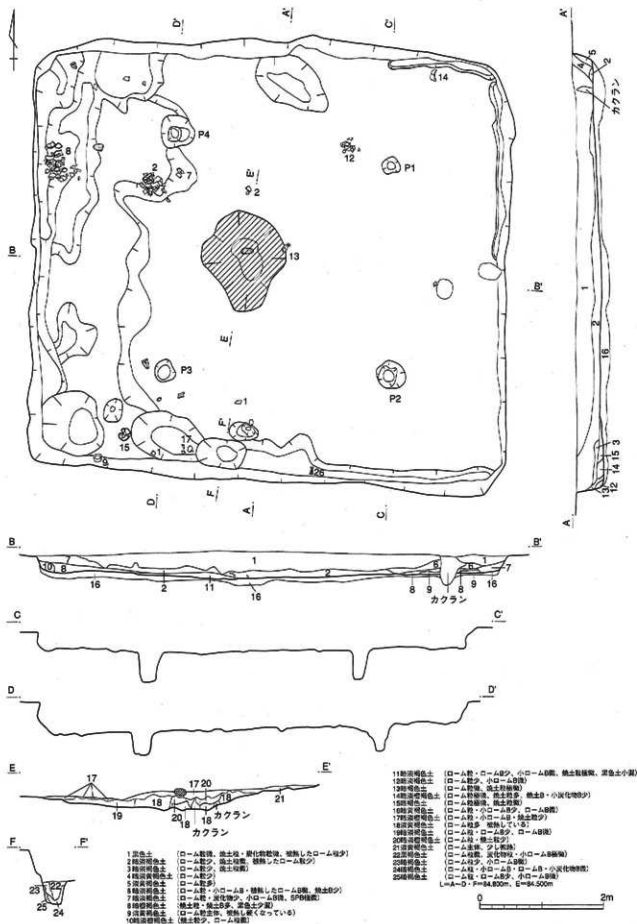
位置 第Ⅲ調査区 カー5 杭付近。平面形 東西にやや長い長方形。規模 東西3.89m×南北3.5m。主軸方向 N-27°-W。床面 貼床で固くしまる。壁 壁高は約20cmで傾斜をもって立ち上がる。柱穴 西より中央に1ヵ所。貯蔵穴 なし。カマド・炉 東側に焼土範囲あり。覆土の状況 自然埋没。遺物 土師器壺5、土師器小形甕1、土師器鉢1、土師器壺2、石製品1。切り合い なし。壁溝 なし。間仕切溝 なし。備考 住居跡周辺は上部を削平された痕跡があり、この住居跡も削平されていると考えられる。

②SI02 (第30～33図)

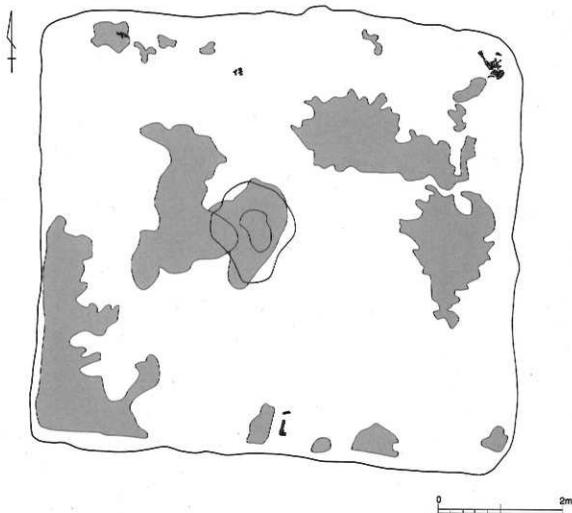
位置 第Ⅳ調査区 西側中央 ウー5 杭付近。平面形 東西にやや長い長方形。規模 東西7.64m×南北7.06m。主軸方向 N-0°-E。床面 貼床を施している。壁 壁高は約40cmでやや傾斜をもって立ち上がる。柱穴 4ヵ所にある。(P1～P4) 貯蔵穴 なし。カマド・炉 ほぼ中央に炉を確認できた。覆土の状況 自然埋没。レンズ状の自然堆積。遺物 土師器壺2、土師器小形鉢1、土師器甕5、土師器壺3、高坏4、瓶1、手焙1、弥生土器破片7、土玉1、砥石1。切り合い なし。壁溝 北東側・南側に確認できた。間仕切溝 なし。備考 床面北東部・西南部・中心部西側に広範な焼土範囲が確認された。炭化物も少量ながら広範に確認された。焼失家屋の可能性ある。



第28図 SI01出土遺物実測図



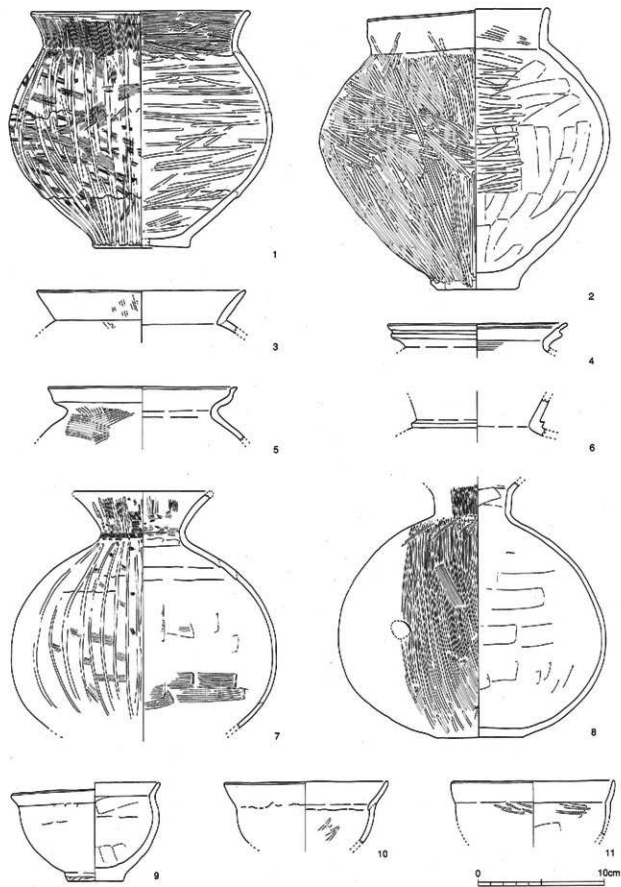
第30図 SiO₂平・断面図



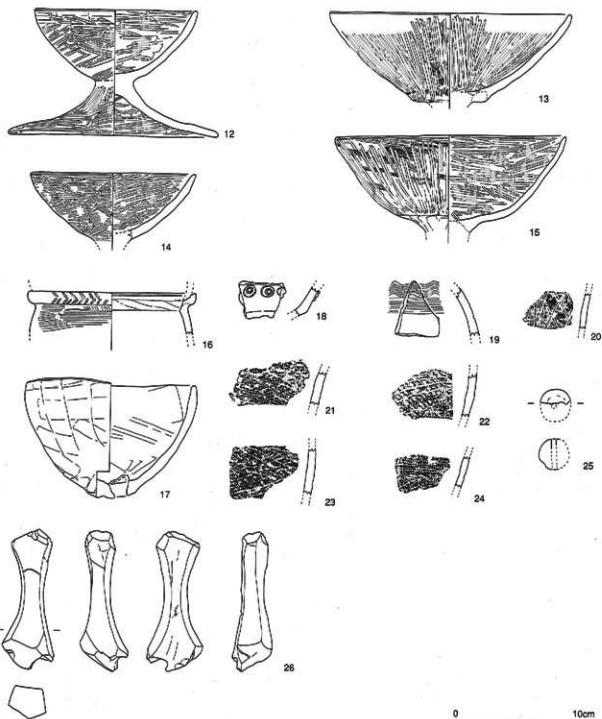
第31図 SiO₂炭化物及び焼土範囲平面図

No.	器 種	寸 法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色 葉	胎 土	焼成	出土位置	備 考
		口径	胎径	底径							
1	甕 (H)	10.0			口縁部はやや内凹する。	内外裏底面のヘラミダキ痕、口縁部跡ナシ	赤褐色	粘土多量 緑土多量	良好	埋土上層	破片
2	甕 (H)			13.6	底面が凹面で、内凹気味に立ち上がる。	外周ナシ、内面ヘラミダキ痕跡ナシ	赤褐色	砂粒	良好	埋土上層	底部破片
3	小形甕 (H)			3.0	口縁部は「く」の字に屈曲し、胴部下平に最大径を示す。	口縁部跡ナシ、胴部外面は、上平のヘラミダキ痕跡ナシ	褐色	砂粒 緑土多量	良好	埋土上層	一部欠損
4	甕 (H)	15.0			体部は内凹気味に立ち上がり、口縁部で外へ反曲する。	内外裏とも、体部ヘラミダキ、口縁部跡ナシ	赤褐色	細砂粒 緑土多量	良好	埋土上層	1/6破 破片片
5	甕 (H)	11.8			体部は内凹気味に立ち上がり、口縁部で内へ反曲する。	体部ヘラミダキ及ヘラミダキ跡、外周のみ底面のヘラミダキ、口縁部跡ナシ	黄褐色 褐色	砂粒	良好	埋土上層	2/3破
6	鉢 (H)	12.2			体部は内凹気味に立ち上がり、口縁部で外へ反曲する。	体部内面ヘラミダキ、外周ヘラミダキ痕跡ナシ、口縁部跡ナシ	赤褐色	砂粒 緑土多量	良好	埋土中層	破片
7	甕 (H)	13.9		4.6	体部は内凹気味に立ち上がり、口縁部に外へ反曲する。	体部内外ナシ、口縁部跡ナシ	赤褐色	粘土多量 緑土多量	普通	埋土中層	
8	甕 (H)			4.2	底面は凹面。	体部内外ナシ	赤褐色	粘土多量 緑土多量	良好	埋土上層	外周欠損
9	甕 (H)				底面が凹面で、内凹気味に立ち上がる。	外周ヘラミダキ、内面ヘラミダキ	黄褐色	砂粒 緑土多量	良好	埋土上層	
10	石製品	長58.2	幅4.2	厚50.8	長方形で、穿孔を1孔穿つ。		灰色			埋土上層	底面5破

第12表 SiO₁出土遺物観察表



第32图 S102出土遺物実測図(1)



第33図 SI02出土遺物実測図 (2)

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調査の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	甕 (H)	(17.5)	18.6	(7.5)	口縁部は「J」の字に屈曲し、胴部中に最大径を有する。	口縁部内外面ハケ、胴部外面ハケ後腹位のヘラミガキ、内面腹位のヘラミガキ。	明褐色 暗赤褐色	粉砂少	良好	掘土中層	1/3残
2	甕 (H)	(14.5)	22.1	6.2	口縁部は直立し、胴部中に最大径を有する。	口縁部内面ハケ後腹位ナシ、胴部外面ナシ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後腹位のヘラミガキ。	暗赤褐色	砂質・小粒	良好	掘土中層	5/6残
3	甕 (H)	(16.4)			口縁部は「J」の字に屈曲。	口縁部外面ハケ後腹位ナシ。	暗褐色	砂質・小粒	良好	掘土中層	破片
4	甕 (H)	(14.8)			口縁部は直立状を有する。	胴部外面ハケ。	褐色 暗褐色	砂質・小粒	良好	掘土中層	破片

第13表 SI02出土遺物観察表 (1)

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調査の時期	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
5	甕(Ⅱ)	(14.2)			口縁部にS字状を記す。 口縁部は特殊する至(1)部で、 彫部はやや下膨れ気味。	口縁部外面は、軽状工用による 花線によるS字状を作り出す。 彫部内面に軽ハナを施す。	淡褐色 暗灰褐色	砂粒・金雲母	良好	埋土上層	破片 取付着
6	甕(Ⅱ)				胴部外面に雲文を記す。	雲文	砂粒・軽石	良好	埋土上層	破片	
7	甕(Ⅱ)	(11.0)			口縁部は特殊する至(1)部で、 彫部はやや下膨れ気味。	赤褐色	砂粒・軽石	良好	埋土上層	2/5残	
8	甕(Ⅱ)			(7.0)	胴部は直立し、胴部はやや下膨れ 気味。	胴部外面彫位の軽なヘラミガキ 内面ヘラミガキ。	淡褐色	砂粒・軽石	良好	3/4残	
9	甕(Ⅱ)	11.8	7.8	4.2	口縁部で内面彫位に立ち上がり、 口縁部で外面彫位に同じ。	口縁部外彫文字、彫部内面 ナデ、内面ヘラミガキ。	淡褐色	砂粒・小石	良好	完形	
10	小深鉢	(13.0)			口縁部内面彫位に同じ。	口縁部内面彫文字、彫部内面 ナデ、内面ヘラミガキ。	褐色	砂粒	良好	埋土下層	破片
11	甕(Ⅱ)	(12.8)			口縁部内面彫位に同じ。	口縁部内面彫文字、彫部内面 ナデ、内面ヘラミガキ。	褐色	砂粒	良好	埋土下層	破片
12	高杯(Ⅱ)	(13.2)	10.1	(16.8)	杯部は筒状を呈し、脚部は大 く彫。	内外前面ヘラミガキ。	暗灰褐色		良好	埋土下層	2/5残
13	高杯(Ⅱ)	(15.6)			杯部下層に横を有する。	内外前面ヘラミガキ。	暗褐色	砂粒・軽石 砂・黒石	良好	埋土下層	破片
14	高杯(Ⅱ)	(15.3)			杯部下層に横を有する。	内外前面ヘラミガキ。	暗褐色	砂粒・小石	良好	埋土中層	半破/25残
15	高杯(Ⅱ)	18.7			杯部下層に横を有する。	外面ハナ波彫位のヘラミガキ。 内面雲文彫位のヘラミガキ。 器底に特殊彫位の脚突を、胴部 外縁は軽ハナ。	暗赤褐色	砂粒	良好	埋土中層	半破のみに 見られる 器底部分
16	手短鉢				底面にS字状を穿つ。	内外面ヘラミガキ。 口縁部外を彫位に同じ。 器底に半に波状文と直線文を 施す。	赤褐色	砂粒・雲母類	良好	埋土中層	破片
17	甕(Ⅱ)	(18.3)	9.6	2.8	底面にS字状を穿つ。	内外面ヘラミガキ。 口縁部外を彫位に同じ。 器底に半に波状文と直線文を 施す。	乳白色	砂粒・軽石	良好	埋土中層	2/4残
18	甕(Ⅱ)				底面にS字状を穿つ。	内外面ヘラミガキ。 口縁部外を彫位に同じ。 器底に半に波状文と直線文を 施す。	赤褐色	砂粒	良好	埋土上層	破片
19	甕(Ⅱ)				底面にS字状を穿つ。	内外面ヘラミガキ。 口縁部外を彫位に同じ。 器底に半に波状文と直線文を 施す。	赤褐色	砂粒・軽石	良好	埋土上層	破片
20	甕(十三弁式)					地スリット状格子印文。	乳白色	砂粒	良好	埋土上層	破片
21	甕(十五弁式)					左折込印の印文。	赤褐色	砂粒・金雲母	良好	埋土上層	破片
22	甕(十五弁式)					左折込印の印文。	赤褐色	砂粒・金雲母	良好	埋土上層	破片
23	甕(十五弁式)					左折込印の印文。	赤褐色	砂粒・金雲母	良好	埋土上層	破片
24	甕(十五弁式)					左折込印の印文。	赤褐色	砂粒・金雲母	良好	埋土上層	破片
25	土玉	径 0.5	高さ 2.5	孔径 0.4			褐色	砂粒	良好	埋土中層	破片
26	甕(Ⅱ)	径 11.2	幅 17~4.5	高さ 1.6~2.5			灰褐色	砂岩		埋土中層	破片

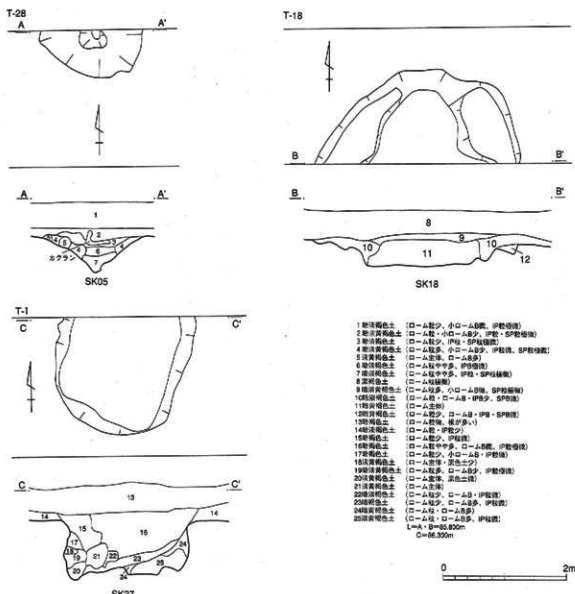
第14表 SI02出土遺物観表(2)

3 土坑 (第34~35図)

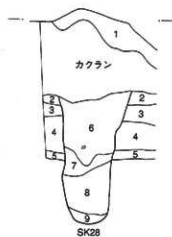
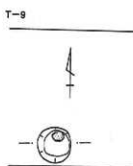
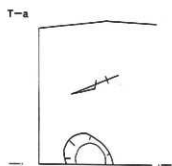
I区とⅢ区で土坑を確認した。I区では多くの土坑が確認できたが、大半は小規模または不明な土坑であった。Ⅲ区の土坑では石皿(幅13.0~17.2cm、厚さ3.0~5.6cm、重さ1.9kg、使用痕有り、両面に煤が付着)が出土している。調査期間等の都合で、すべての土坑を完掘することはできなかった。

遺構名	位置	切り合い	平面形	規模	遺物	備考
SK05	第I調査区 T-28ト-15杭付近	なし	不整形	東西1.60m 南北1.42m	遺物なし	T-28北側壁面で1/2未調査
SK18	第I調査区 T-18ト-10杭付近	なし	不整形	東西3.33m	遺物なし	T-18南側壁面で1/2未調査
SK27	第I調査区 T-1エ-1杭付近	なし	楕円形	東西2.08m 南北2.74m	遺物なし	T-1北側壁面で1/3未調査
SK28	第Ⅲ調査区 T-aク-2杭付近	なし	楕円形	東西0.83m 南北0.59m	須恵器高台付坏1	T-a北西側壁面で1/2未調査
SK29	第Ⅲ調査区 T-9キ-6杭付近	なし	円形	直径0.53m	石皿	

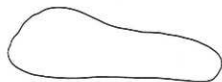
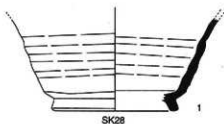
第15表 土坑一覽表



第34図 第I調査区土坑平・断面図



- 1 野焼土 (ローム粒少、小ローム粒多)
 - 2 野焼土 (ローム粒細粒、しまっている)
 - 3 野焼土 (ローム粒、SP粒細粒、やや柔らかい)
 - 4 野焼土 (ローム粒、IP粒、SP粒細粒、しまっている)
 - 5 赤褐色土 (ローム粒細粒、SP粒、SP粒少)
 - 6 赤土 (ローム粒、小IP粒、ローム粒細粒、柔らかい)
 - 7 赤土 (ローム粒、小ローム粒少)
 - 8 赤土 (小ローム粒中少)
 - 9 赤土 (小ローム粒細粒)
 - 10 赤土 (ローム粒、小ローム粒)
 - 11 赤土 (ローム粒)
- L=A+85.00m
B=82.50m



第35図 第三調査区土坑平・断面・遺物実測図

No.	器 種	寸 法 (cm)			器形の特徴	調査の呼称	色 調	胎 土	焼 成	出土位置	備 考
		口徑	器高	底径							
1	高台付杯 (S)			10.8	高台を付し、底部は直線的に深く、	ロケロ成形。	灰色	砂粒	良好	埋土中	SK28
2	石皿	幅13.0-17.2	厚3.0-5.6	重さ1.9kg							埋土中に 複数個存在 SK29

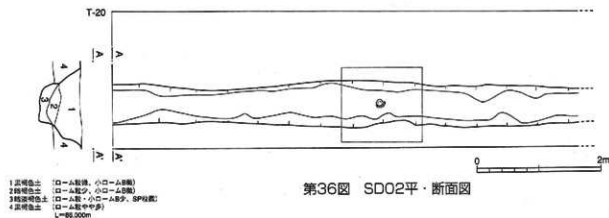
第16表 第Ⅲ調査区土坑出土遺物観察表

4 溝 (第36~41図)

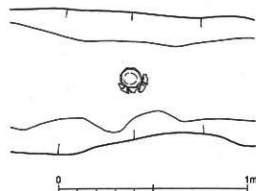
I区において、8条の溝が確認できた。

SD01 I区の西部を南北に走り、途中で東に折れる。推定される長さは約130m。上幅は約0.6~1.2m、下幅は約0.24~0.42m、確認面からの深さは0.66~0.78m。断面形状は逆台形。埋土は自然堆積である。屈曲部に境に別の溝の可能性も考えられるが、屈曲部分が攪乱を受けており明確な調査はできなかった。

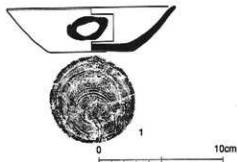
SD02 I区の中央部をほぼ東西に走っている。長さは約30m。上幅は約0.5~0.8m、下幅は約0.2~0.6m、確認面からの深さは約0.6mある。断面形状は逆台形。埋土は自然堆積である。溝の西よりのところから墨書のある土器が出土している (第38図)。溝の西側延長線上にはSD01が延びている。



第36図 SD02平・断面図



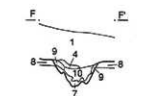
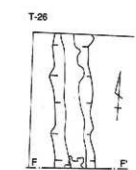
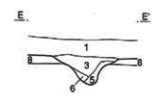
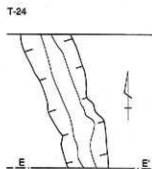
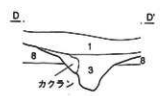
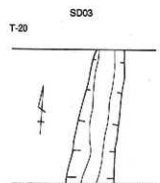
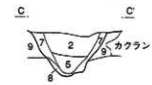
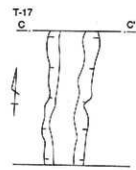
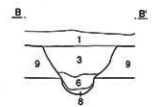
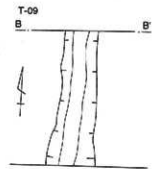
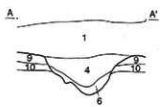
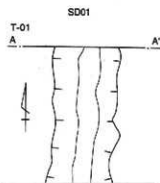
第37図 SD02遺物出土状態図



第38図 SD02出土遺物実測図

No.	器 種	寸 法 (cm)			器形の特徴	調査の呼称	色 調	胎 土	焼 成	出土位置	備 考
		口徑	器高	底径							
1	杯 (S)	14.0	3.5	6.8	平底で、縁部は直線的に深く、口縁部に至る。	底縁部直線あり。	灰色	砂粒 白色粒	良好	埋土中	L29埋積外面に「G」の墨書

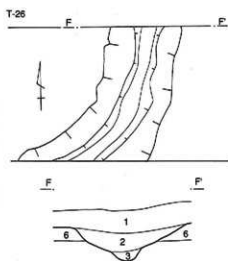
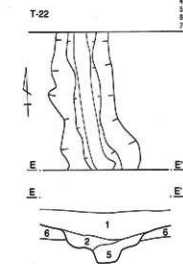
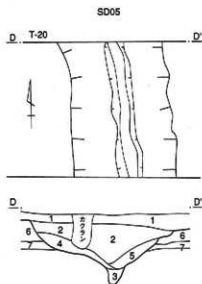
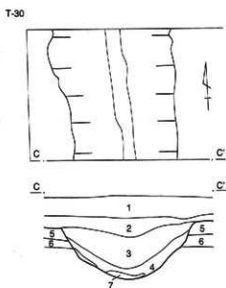
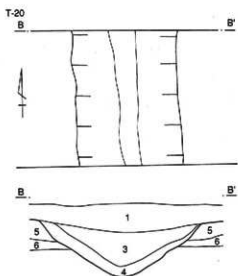
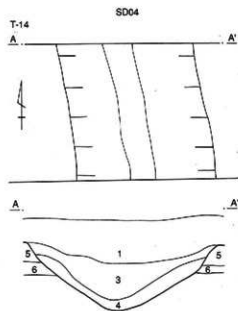
第17表 第Ⅰ調査区SD02出土遺物観察表



- SD01
- 1 礫層土 (ローム層)
 - 2 泥層土 (ローム層少、小ローム多)
 - 3 泥層土 (ローム層)
 - 4 礫層土 (ローム層少)
 - 5 礫層土 (ローム層少、小ローム多)
 - 6 礫状層土 (ローム層少、小ローム多、ローム層)
 - 7 礫状層土 (ローム層、小ローム多、伊勢砂)
 - 8 礫状層土 (ローム層少、小ローム多)
 - 9 礫層土 (ローム層多、小ローム多、伊勢砂)
 - 10 礫状層土 (ローム層多、小ローム多)
- L=幅員750m
B・C=幅員400m

- SD03
- 1 礫層土 (ローム層)
 - 2 泥層土 (ローム層少、小ローム多、ローム層、伊勢砂)
 - 3 礫層土 (ローム層、小ローム多、伊勢砂)
 - 4 礫層土 (ローム層少、小ローム多、ローム層、伊勢砂、伊勢砂、流石)
 - 5 礫層土 (ローム層少、小ローム多)
 - 6 礫状層土 (ローム層少、小ローム多)
 - 7 泥層土 (ローム層)
 - 8 礫状層土 (ローム層少、小ローム多)
 - 9 礫状層土 (ローム層多)
 - 10 礫状層土 (ローム層、小ローム多、ローム層、伊勢砂)
- L=D・C=幅員800m
F=幅員900m

第39図 SD01・03平・断面図



SD04

1 礫層土 (□-ム粒極大、径が多少)
 2 礫層土 (□-ム粒、IP粒極大)
 3 礫層土 (□-ム粒、小□-ム粒、IP粒極大)
 4 礫層砂土 (□-ム粒、小□-ム粒少、SP粒、IP粒極大)
 5 礫層砂土 (□-ム粒少、小□-ム粒、IP粒極大)
 6 礫層砂土 (□-ム粒、小□-ム粒少、SP粒極大)
 7 礫層砂土 (□-ム粒極大)

L = A = 86.40m
 B = C = 86.00m

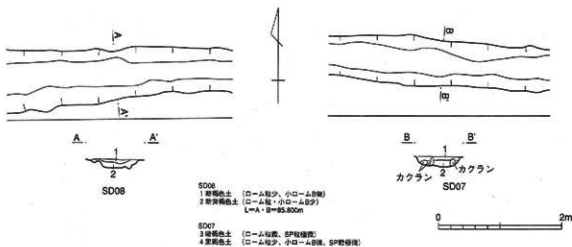
SD05

1 礫層土 (□-ム粒極大)
 2 礫層土 (□-ム粒少、小□-ム粒、□-ム粒)
 3 礫層砂土 (□-ム粒、小□-ム粒少)
 4 礫層砂土 (□-ム粒、小□-ム粒少)
 5 礫層砂土 (□-ム粒、小□-ム粒少)
 6 礫層砂土 (□-ム粒、小□-ム粒極大)
 7 礫層砂土 (□-ム粒多、小□-ム粒)

L = 88.00m

0 2m

第40图 SD04·05平断面图



第41図 SD08・07平・断面図

SD03 I区の東部を南北に走っている。推定される長さは約55m。上幅は約0.48～0.84m、下幅は約0.2～0.3m、確認面からの深さは約0.4～0.6mある。断面形状は逆台形。埋土は自然堆積である。

SD04 I区の東側を南北に走っている。推定される長さは約120m。上幅は約1.68～2.30m、下幅は約0.2～0.5m、確認面からの深さは約0.9mある。断面形状は船底形。埋土は自然堆積である。

SD05 I区の東部、SD04の東を南北に走っている。推定される長さは約40m。上幅は約0.84～1.68m、下幅は約0.1～0.3m、確認面からの深さは約0.5～0.9mある。断面形状は、両側に緩やかな傾斜面を1段持つ船底形。埋土は自然堆積である。

SD07 I区の北東部をほぼ東西に走っている。推定される長さは約45m。上幅は約0.8m、下幅は約0.3m、確認面からの深さは約0.2m。断面形状は船底形。埋土は自然堆積。SD04に切られている。

SD08 I区の北東部、SD07の北側をほぼ東西に走っている。推定される長さは約28m。上幅は約0.82～1.10m、下幅は約0.3～0.5m、確認面からの深さは約0.2mある。断面形状は船底形。埋土は自然堆積である。SD04に切られている。

5 遺構外遺物

調査区内では縄文～近世にかけての遺物が表採できた。

①縄文・弥生 (第42図)

1～10は縄文土器である。

1は、深鉢で、口縁端部に刻みを持ち、その直下に刺突文と沈線文を1条施す。胴部にはヘラ状の工具によるナデ及びミガキ調整が施される。

2は、口縁部片で、胴部にLRの単節縄文を施し、口縁部に半截竹管による刺突文と押引文を施す。

3は、胴部にRLの縄を縦に転がし、羽状縄文を施す。頸部に半截竹管による押引文を施す。

4は、口縁部片で、粘土紐を貼付けた後、半截竹管による刺突文を施す。

5は、粘土紐の貼付けによる渦巻文が施される。

6と7は同一個体で、胴部に条痕文が施される。胎土には金雲母が含まれる。

8と9は胴部にRLの単節縄文が施される。

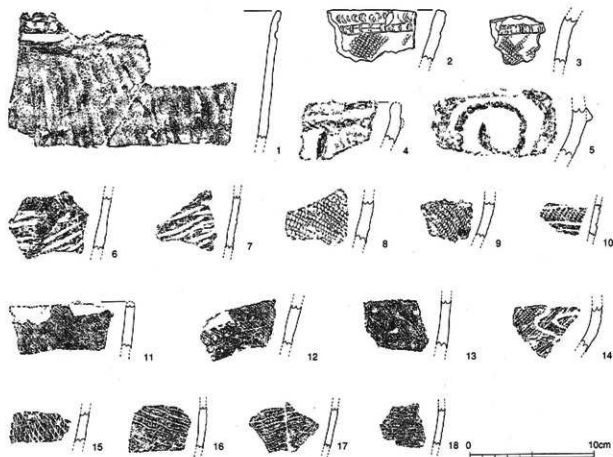
10は、3本の沈線と櫛状工具による刺突文が施される。

11～13は同一個体で、附加状1種縄文を施す。

14は胴部片で、地文にLRの縄文を施し、その後沈線による文様が施される。

15は胴部片で、網目状捻糸文を施す。

16～18は胴部片で附加状1種の縄文を施す。色調は、いずれも乳白色である。



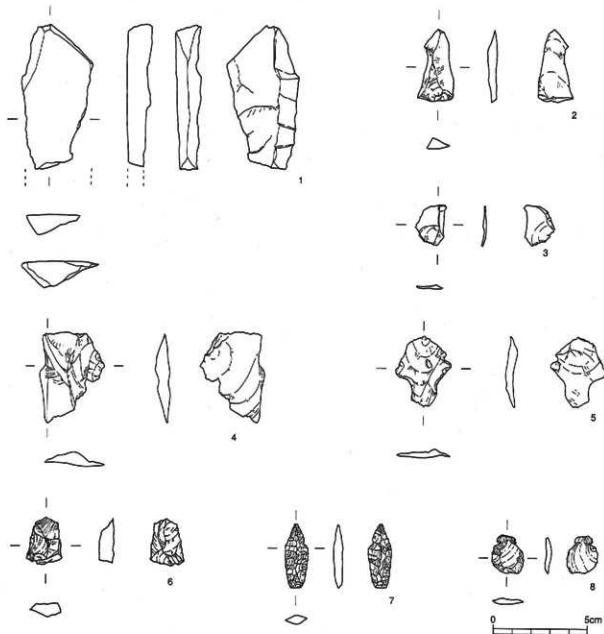
第42図 遺構外出土縄文土・弥生器実測図

②石器 (第43図)

石器はすべてⅣ区とⅤ区の遺構埋土中より出土した。

1～6は剥片で、1以外は珪質頁岩である。それぞれの寸法は、1が長さ7.6cm、最大幅3.6cm、厚さ1.0～1.4cm、2が長さ3.8cm、最大幅1.9cm、厚さ0.5cm、3が長さ2.1cm、最大幅1.4cm、厚さ0.2cm、4が長さ4.7cm、最大幅3.1cm、厚さ0.6cm、5が長さ3.7cm、最大幅2.9cm、厚さ1.34cm、6が長さ2.5cm、最大幅1.6cm、厚さ0.8cmである。

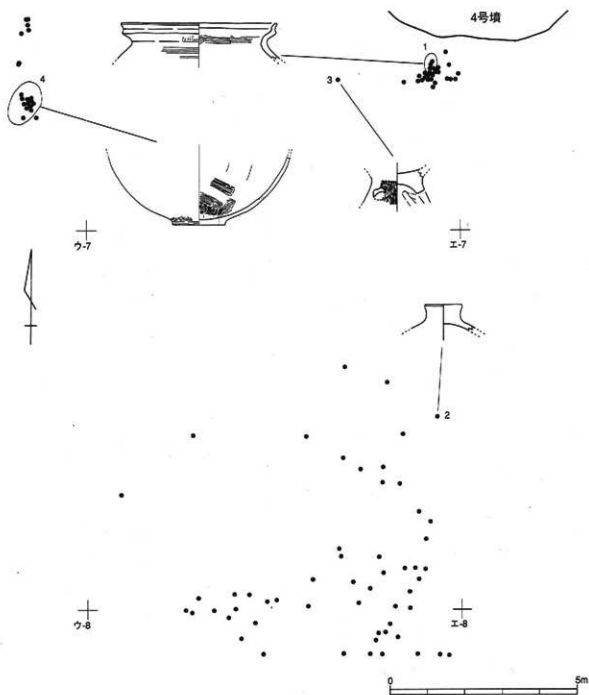
7は石鏃で、材質は黒曜石、寸法は長さ3.4cm、最大幅1.2cm、厚さ0.5cm、8は石匙で、材質は黒曜石、寸法は長さ2.0cm、最大幅1.6cm、厚さ0.35cmである。



第43図 石器実測図

③土師器 (第44・45図)

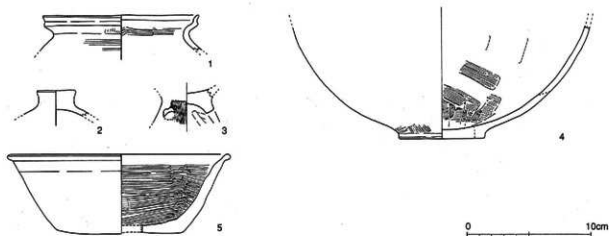
Ⅳ区の4号墳南側で土器片が集中して出土する区域を確認した(第44図)。1～4は、4号墳とほぼ同一の時期の遺物であることから、この古墳の祭祀に関わる遺物の可能性がある。5は、1号墳の埋土中より出土した。遺物の詳細については、第19表を参照されたい。



第44図 第V調査区遺物散乱区域遺物分布図

No.	器 種	寸 法 (cm)		器形の特徴	製法の概説	色 調	胎 土	焼成	出土位置	備 考
		口径	器高							
1	罎 (H)	(12.5)		口縁部はS字状を呈する。	口縁部内外沿縁ナズ、腹部内面はハケ、腹縁部は直ハケ。	赤褐色	砂粒	良好	埋土中	破片
2	甕 (H)			ボタン状の銅みを有する。腹部に円形の透孔を2孔穿つ。	口縁部内外沿縁ナズ、腹部内面はハケ、腹縁部は直ハケ。	淡褐色	砂粒・細石	良好	埋土中	破片・銅片
3	高坏 (H)		5.8	胴部球形。	胴部内面ハケ後ハケナズ、内面ハケ後ナズ。	淡褐色	砂粒・細石・赤色土	良好	埋土中	破片
4	甕 (H)		10.0	平底で、体部は直筒状に凝り、口縁部に平る。	口縁部内外沿縁ナズ、腹部内面はハケ、腹縁部は直ハケ。	暗褐色 赤色 赤褐色	コアラ 砂粒	良好	埋土中	破片
5	坏 (H)	(17.9)	8.4			赤褐色 淡褐色	砂粒・細石	良好	1号墳 埋土中	3/4程度 内面赤色 処理

第18表 第IV調査区遺構外出土遺物観察表

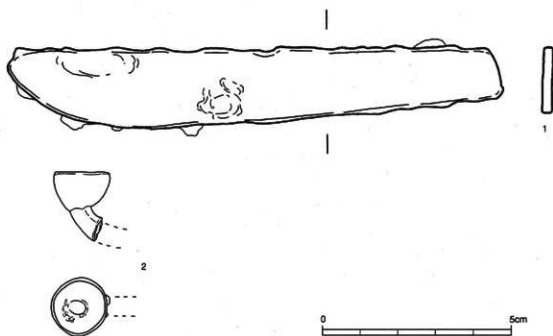


第45図 遺構外出土遺物実測図

④金属器 (第46図)

1はS区より出土した鉄製品で、寸法が長さ13.2cm、幅1.4~2.1cm、厚さ0.1~0.3cmで、形状は刀子に見えるが刃部を持たず用途は不明である。

2はS区より出土した青銅製のキセルである。



第46図 鉄・青銅品出土遺物実測図

IV まとめ

(1) 古墳群の変遷について

今回の調査において、調査区Ⅳ区・Ⅴ区の台地縁辺で、古墳時代前期～後期にかけての8基の古墳が確認できた。地形図からわかるように、台地の縁辺に位置し、東側は江川に向かっての傾斜面を形成する。西側は、保存地区となるため調査を実施しなかったが、5号墳・8号墳の状況から古墳群は若干広がりをもつと想定される。

古墳群を構成する8基の古墳は、2号・4号墳は方墳で、8号墳は前方後円墳、残りが円墳である。8号墳以外は盛土部が確認できなかった。本遺跡から西に約1.5kmのところの所在する琴平塚古墳群の中にも低墳丘の円墳が確認されていることからすると、元々低墳丘だったものが後世の開墾により、削平されたものと考えられる。8号墳も後円部の一部が残っているのみで、遺存状況は悪く、埋葬施設が堅穴系か横穴系か不明である。よって、埋葬施設が確認できたのは、4号墳のみである。尚、4号墳の埋葬形態は、木棺直葬と考えられる。

それぞれの古墳群の時期は、2号墳と4号墳が古墳前期の土器を、1号墳、3号墳、5号墳、6号墳が中期の土器を、8号墳が後期の土器を出土していることから、前期から後期にかけてのものである。

次に各古墳出土の土器を検討し、古墳群内の変遷を明らかにしてみたい。

まず、前期に位置づけられる2号墳と4号墳であるが、両方から出土している土器は二重口縁壺である。4号墳出土第18図1のものは、二重口縁部の屈曲が明瞭で、波状文と横線文の装飾を持ち、頸部の突帯もしっかりしている。これに対し、2号墳出土第12図5は二重口縁部の屈曲が消失し、頸部の突帯が低い。よって4号墳が2号墳に先行するものと考えられる。尚、第18図2の壺は、東海地方の広口壺の影響の見られるもので、2号墳出土のS字甕との関連が指摘できる。

次に中期に位置づけられる1号墳、3号墳、5号墳、6号墳についてみる。

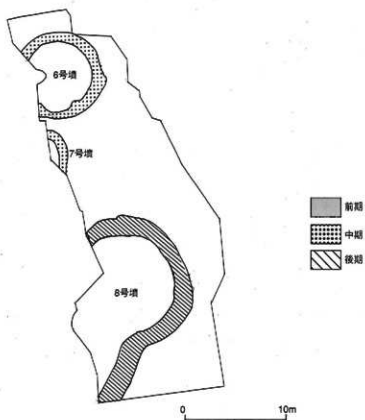
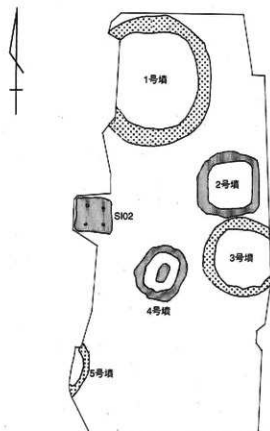
1号墳は、第9図1の甕が周溝下層より出土しており、この古墳に伴うものと考えられる。この土器のみから時期の判定は難しいが、頸部が「く」の字状で、胴部の調整がナゲ調整のみであることから、中期前半に位置づけられると考える。

3号墳出土の第14図1は、筆者分類の小形鉢・塊A2類に、2は口縁部径が胴部最大径をやや下回ることから小形壺B2類、3は口縁部径が胴部径を上回ることから小形壺A2類に分類でき、これらの共存関係から中期の前半、筆者Ⅳ～Ⅴ段階（秋元・今平 1998）に位置づけることができる。尚、第14図5と6は、本墳が2号墳と接していることから、2号墳からの流れ込みの遺物と考えられる。

5号墳は、部分的な調査であり、遺物も覆土中の出土であることから、時期の断定はできないが、あえて、その出土遺物から推定すれば、第20図1の甕の口縁部が、一端直立した後外形する所謂「コ」の字状を呈することから、宇都宮市雷電山遺跡5号住や稲荷塚1号住出土のものと同タイプと考えられ、藤田氏のⅣ期（藤田1999）に位置づけられる。尚、これは筆者Ⅵ段階と並行する。

6号墳出土の第23図8と9は同一個体と考えられ、直口縁で胴部下半に最大径のある下影れであることから筆者の小形壺C類に位置づけられ、その他の坏類は内斜口縁のB2類に、小形鉢・塊類はA2類に器種に分類でき、その共存関係から中期後半、筆者Ⅴ～Ⅵ段階に位置づけられる。

最後に後期の8号墳についてみる。



第47図 古墳群変遷図

8号墳は、周溝の上層～中層にかけて須恵器甕、鉢、横瓶？、土師器坏が出土している。その出土状況からすると、直接的に古墳の年代を示しているか疑問であるが、あえてその出土遺物から推定すれば、土師器坏が田熊・梁木分類のE類（田熊・梁木1989）になり、その流量から田熊・梁木IV期に位置づけられ、7世紀前葉にあたる。

以上、出土土器からの古墳群の変遷をまとめてみると、古墳時代前期に方墳が4号墳→2号墳の順で築造され、中期に1号墳・3号墳→5号墳・6号墳と北から南にかけて円墳が築造される。この流れから行けば、7号墳もこの時期を前後する段階で築造されたと考えられる。その後、一端、この墓域での造営が中断され、7世紀を前後する時期に前方後円墳が造られる。本県においても、7世紀を前後する時期で前方後円墳の築造が停止することから、本墳もその最終段階の前方後円墳と考えられる。

このように本古墳群はある程度継続して古墳が築造されている。次に周辺古墳群との関係についてみてみる。この周辺には、大小の古墳群が存在するが、その中で最大なのは東谷古墳群である。県内でも最大級の前方後円墳である笹塚古墳をはじめ、前方後円墳の双子塚古墳と松の塚古墳など大小の円墳合わせて23基が確認され、このほかにも古墳が存在する可能性があり、この周辺においては最大の古墳群である。この古墳群の造営開始時期については、5世紀前半の双子塚古墳の造営に始まり、ほぼ5世紀代を通して造りつけられると橋本氏等は指摘する（橋本他2001）。その後、北北東約1kmのところにある磯岡北古墳群（円墳7基）、琴平塚古墳群（前方後円墳1基・円墳6基）、中島笹塚古墳群（円墳7基、方墳2基）が中期後半から後期にかけて築造される。なお、ここから北方約1.5kmの下桑島西原古墳群も規模は小さいがほぼ並行する時期の古墳群である。さらに後期になると西赤堀遺跡、成願寺古墳群、飯塚古墳など横穴式石室を持つ古墳が江川寄りによく築造される。

このような周辺古墳群の流れの中で、本古墳群はどのように位置づけられるのであろうか。先に述べたこの地域最大の東谷古墳群の最初の築造が5世紀の前半代とのことであるから、本古墳群の築造はそれに遡る。前期古墳は今まで茂原古墳群や牛塚東遺跡など田川右岸でのみ確認されていたが、今回、左岸の地域に小規模であるが前期古墳が確認された意義は大きい。

本古墳群の母体となる集落は、調査区内ではSI02の1軒が確認されているのみであるが、さらに西側に集落が展開する可能性が指摘できる。また、北西約2kmのところにある砂田東遺跡ではこの時期の2軒の堅穴住居跡が確認されており、田川左岸にも前期の集落が展開していたことは確実である。但し、その集団は前方後方墳を造れるだけの集団ではなかったであろう。

その後、東谷古墳群の築造と並行してこの古墳群も築造されていることから、その傘下に取り込まれたものと考えられる。尚、Ⅲ区のSI01もこの時期に位置づけられる。そして、東谷古墳群造営の停止とともに、本古墳群も一端造営を停止する。これが何を意味するかは不明であるが、西赤堀遺跡や成願寺古墳群など周辺で横穴式石室をもつ古墳が造られ、その段階に最後の前方後円墳である8号墳が造られる。

(2) 方～円への転換

最後に、本県の方形墳から円形墳の転換について簡単にまとめてみる。

本古墳群は、主に前期から中期にかけて継続して築造された古墳群で、方形墳から円形墳の転換の様子が窺える。先にも述べたように、その時期は2号墳と1号墳・3号墳との間に当たる。まさに前期から中期への過渡期に墳形の転換が図られている。

ここで県内の状況を見てみると、最初に円墳もしくは前方後円墳のような円形墳を採用したのは、県南の

足利市小曾根浅間山古墳と佐野市馬門愛宕塚古墳の2基の前方後円墳である。前者については研究者により若干の時期差があるが、概ね前方後円墳研究会共通編年の3期に位置づけられる。

その後、県央部においても上神主浅間神社古墳（円墳）が茂原古墳群の南1kmのところに築造される。この古墳の時期については共通編年の5期に位置づけるのが一般的である（小森1996、仲山1998）。この古墳には隣接して神主38号墳（方墳）が存在する。両者に共通する器種として埴が挙げられる。筆者の分類（秋元・今平1998）では、前者出土のものは小型壺に、後者出土のものは小型甕に該当する。よって、両者を直接的に比較することはできないが、本古墳群3号墳のセット関係は、両者が供伴して出土しており、その形態も類似することから、上神主浅間神社古墳、神主38号墳、本古墳群3号墳の3者はほぼ同時期と考えられる。このことから、一部方形墳が残るものの、この時期に円形墳の採用が急速に広まったことが窺える。

本県において共通編年4期の円形墳の動向が今のところ不明であるが、少なくとも足利・佐野の県南西部地域においては、この時期に存在した可能性が高い。問題は、県央部における円形墳の導入が遅れる要因が何であったのかと、小規模首長の墓制が方→円に転換した時期が何時の時点であるかである。前者については多方面からの検討の余地があり、簡単に結論を導き出しえないが、後者の問題については、今回の調査により、少なくとも共通編年5期の段階に直径15m前後の小規模円形墳に埋葬される被葬者が存在したことが判明した。これはまさに、土器においても畿内色の強まる時期にあたり、社会全体が畿内化していく状況の一端を、今回の調査は示していると言える。

秋元陽光・今平利幸 1998「宇都宮市笹塚古墳出土の遺物」『峰考古』13号 宇都宮大学考古学研究会

藤田典夫 1999「栃木県における5世紀の土器編年」『東国土器研究』第5号 東国土器研究会

小森哲也 1996「下野の前方後円墳」『東北・関東における前方後円墳の編年と画期』第1回東北・関東前方後円墳研究会

田熊清彦・梁木誠 1989「古代下野の土器様相（I）」『栃木県考古学会誌』第11号 栃木県考古学会

仲山英樹 1998「栃木県 前期古墳から中期古墳へ」『前期古墳から中期古墳へ』第3回東北・関東前方後円墳研究大会

橋本澄朗他 2001「第2節「東谷古墳群」と権現山遺跡・百目鬼遺跡」『権現山遺跡・百目鬼遺跡』栃木県教育委員会・（財）とちぎ生涯学習文化財団

写真図版



調査地上空から（南東上空から）



①第Ⅰ調査区調査前風景



②第Ⅱ調査区全景（北から）



③第Ⅲ調査区トレンチ（南西から）



④1号墳完掘状況（北東から）



⑤1号墳遺物出土状態



⑥1号墳西SD01（E-E）



⑦1号墳セクション（A-A）



⑧2号墳完掘状況（東南から）



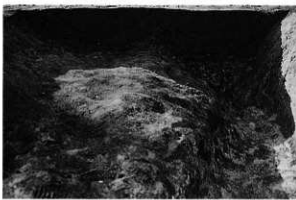
①2号墳周溝セクション (C-C')



②2号墳遺物出土状態 (南から)



③3号墳完掘状況 (南東から)



④3号墳セクション (A-A')



⑤4号墳完掘状況 (北東から)



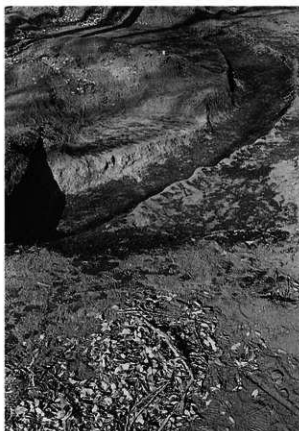
⑭号墳主体部 (南南西から)



⑳号墳遺物出土状態 (南から)



㉓号墳主体部セクション (南西から)



㉕号墳完掘状況 (南から)



㉗号墳遺物出土状態 (南東から)



㉙号墳完掘状況 (東から)



①6号墳遺物出土状態（南東から）



③8号墳調査風景



②7号墳完掘状況（南から）



④8号墳完掘状況（南西から）



①8号墳 (東から)



②8号墳墳丘セクション (南東から)



③SI01完掘状況 (南東から)



④SI01遺物出土状況 (南東から)



⑤SI02完掘状況 (東から)



⑥SI02遺物出土状況 (南東から)



⑦SI02柱穴 (西から)



⑧SI02遺物出土状態 (北東から)



①SIO2窯出土状態（南西から）



②SK29完掘状況（北から）



③SK28完掘状況（西から）



④SK05完掘状況（南から）



⑤SK18完掘状況（北から）



⑥SK27完掘状況（南から）



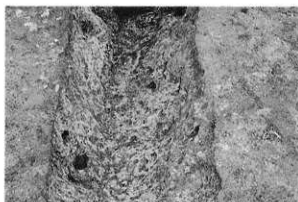
⑦SD01 <T-03>（南から）



⑧SD01 <T-09>（南から）



①SD01 <T-17> (南から)



②SD03 <T-20> (北から)



③SD03 <T-24> (南から)



④SD03 <T-26> (北から)



⑤SD04 <T-14> (南から)



⑥SD04 <T-20> (南から)



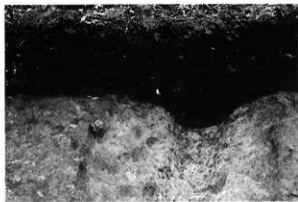
⑦SD04 <T-30> (北から)



⑧SD05 <T-20> (南から)



①SD05 <T-22> (北から)



②SD05 <T-26> (南から)



③SD02 <T-20> (西から)



④SD07 <T-12> (東から)



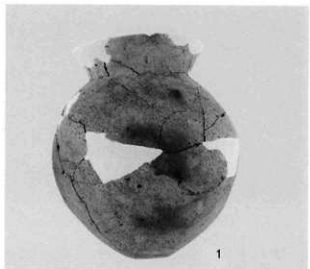
⑤SD08 <T-10> (東から)



⑥SD02墨書土器出土状態 (南から)



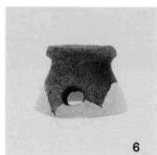
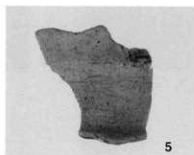
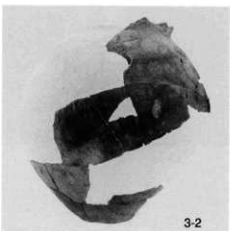
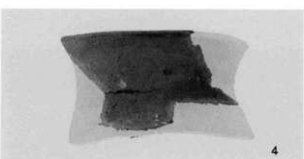
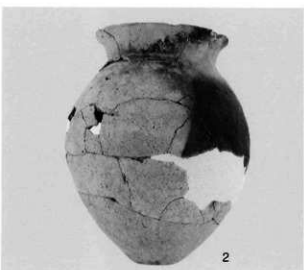
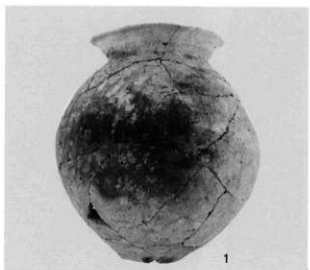
⑦発掘調査関係者



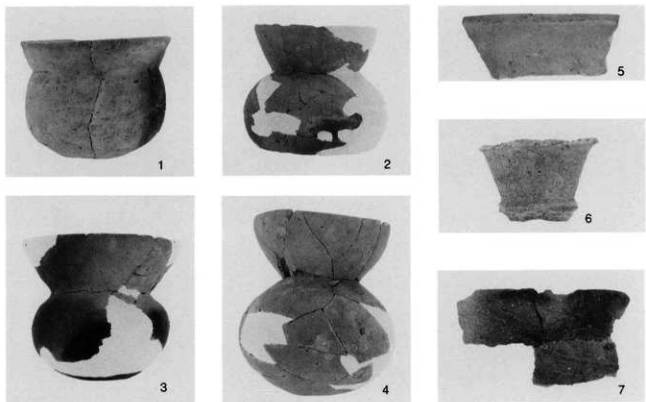
①1号墳出土遺物



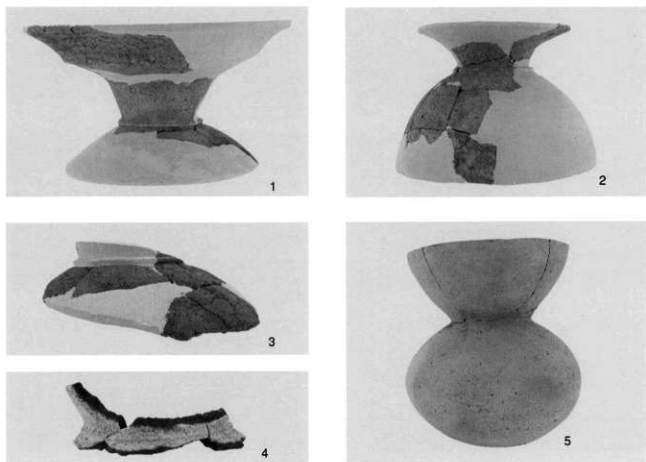
②SD01出土遺物



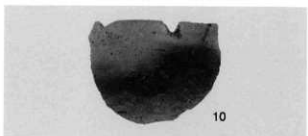
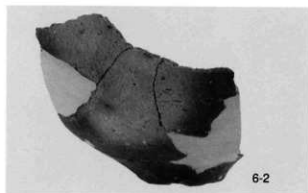
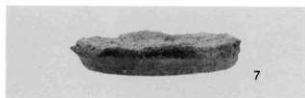
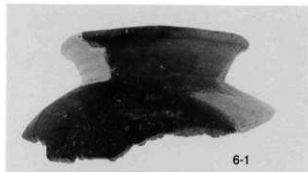
③2号墳 出土遺物



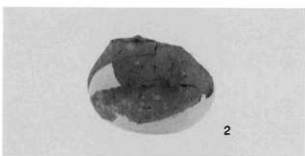
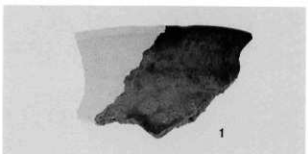
②3号墳出土遺物



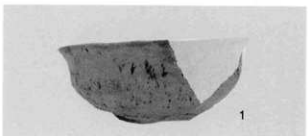
②4号墳 出土遺物 (1)



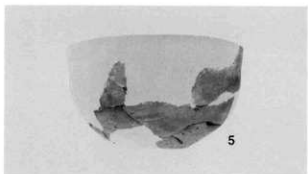
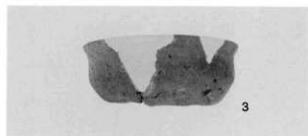
①4号墳 出土遺物 (2)



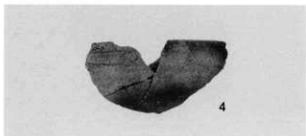
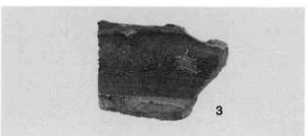
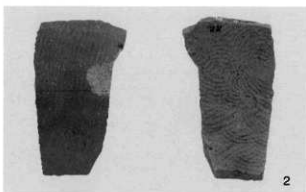
②5号墳 出土遺物



③6号墳 出土遺物 (1)

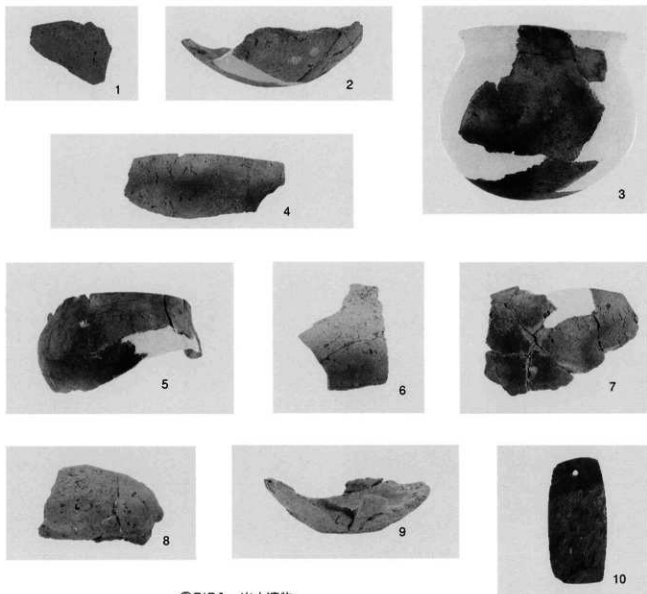


⑥6号墳 出土遺物 (2)

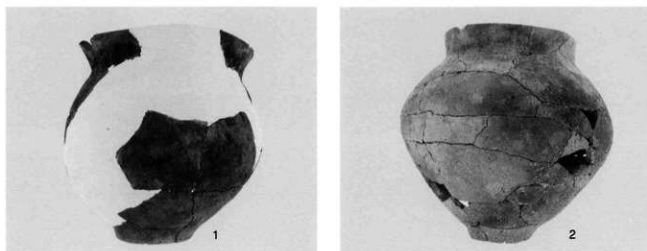


② 8号墳 出土遺物

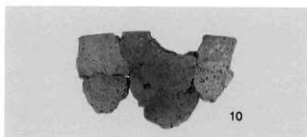
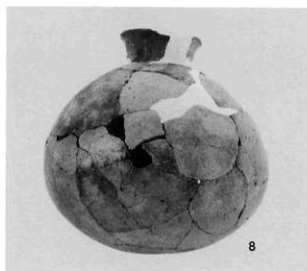
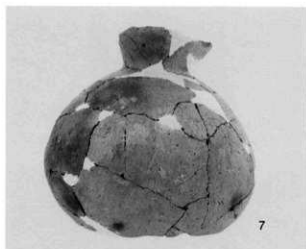
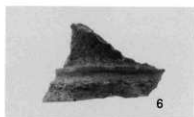
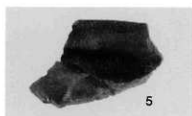
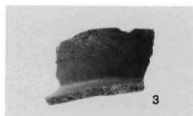
PL14

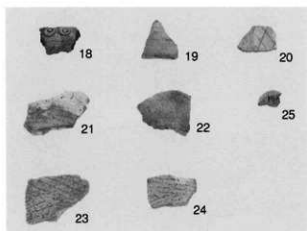
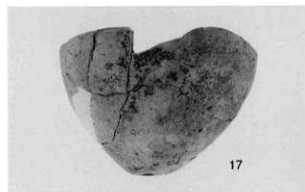
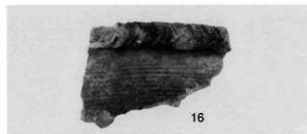
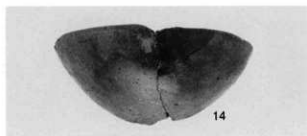


①SIO1 出土遺物

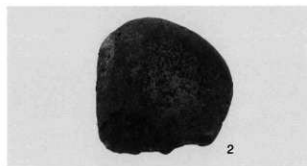


②SIO2 出土遺物 (1)

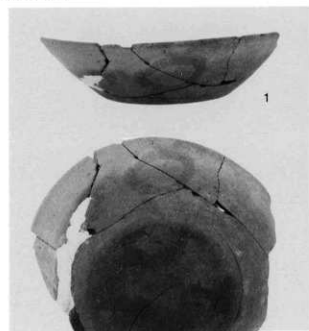




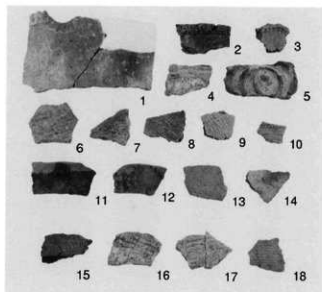
② S102 出土遺物 (3)



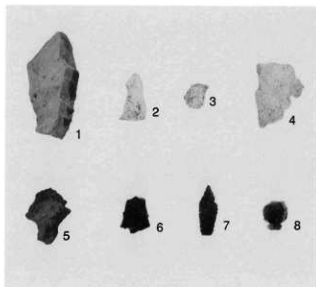
②土坑 出土遺物



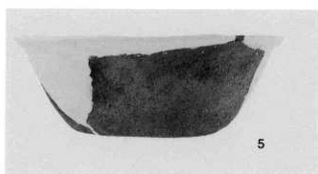
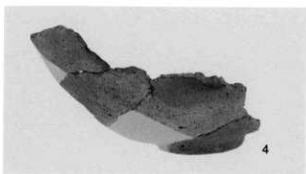
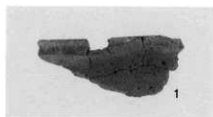
③SD 02 出土遺物



① 遺構外出土遺物 (縄文・弥生)



② 遺構外出土遺物 (石器)



③ 遺構外出土遺物 (土師器)



④ 遺構外出土遺物 (金属器)

報告書抄録

ふりがな	にしおさかべこやはらいせき
書名	西刑部古屋原遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財報告書
シリーズ番号	第46集
編著者名	清水正幸
編集機関	宇都宮市教育委員会
所在地	宇都宮市旭1丁目1番5号
発行年月日	西暦 2002年（平成14年）3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査機関	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
にしおさかべこやはらいせき 西刑部古屋原	うつのみやし 宇都宮市 にしおさかべこや 西刑部町	09201	4364	36度 29分 17秒	139度 55分 43秒	19980402 ～ 19990303	28,000	(仮) 総合 運動公園整 備事業に伴 う調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
にしおさかべこやはらいせき 西刑部古屋原 遺跡	集落跡	古墳	竪穴式住居 2軒	土師器	
	古墳	古墳	古墳 8基	土師器	
	集落跡	平安	溝 1条	須恵器	

宇都宮市埋蔵文化財調査報告第46集

西 刑 部 古 屋 原 遺 跡

平成14年3月発行

発 行 宇都宮市教育委員会文化課

(宇都宮市旭1-1-5)

TEL (028) 632-2764

印 刷 株式会社松井ビ・テ・オ印刷

(宇都宮市陽東5丁目9番21号)

TEL (028) 662-2511

R2100

古紙配合率100%再生紙を使用しています。